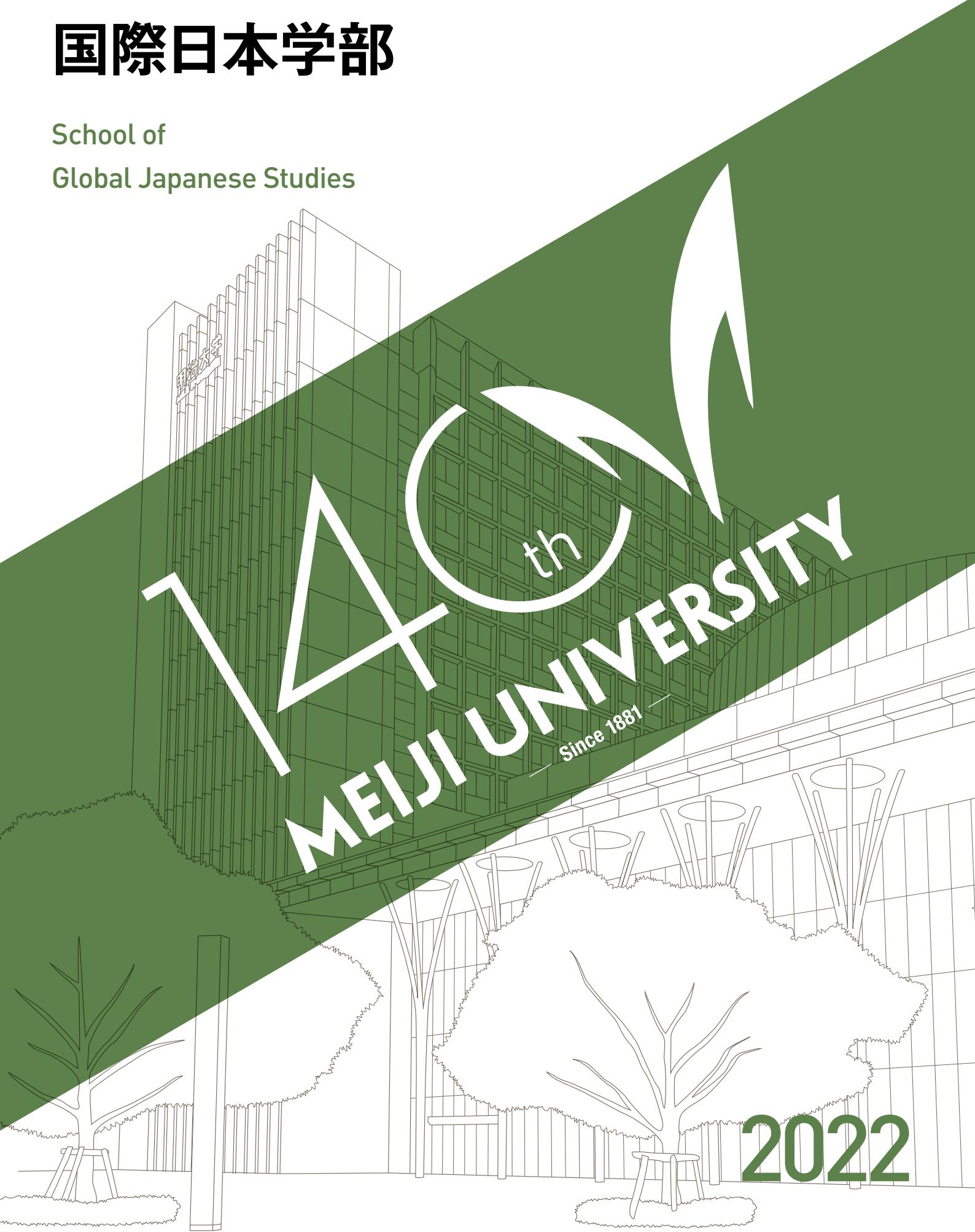




国際日本学部

School of
Global Japanese Studies



国際日本学部長
鈴木 賢志（すずき けんじ）

1968年生まれ。明治大学付属明治中学・高等学校、東京大学（法学）、ロンドン大学（修士）、ウォーリック大学（博士）、スウェーデンのスтокホルム商科大学欧洲日本研究所で10年間教育研究に従事し、オックスフォード大学研究員を経て帰国。日本と北欧の社会システムの比較研究を専門とし、一般社団法人スウェーデン社会研究所の代表理事・所長も務める。



動画と記事で学部を知る
「Step into Meiji University」も
ぜひご覧ください



CONTENTS

学部長メッセージ	1
国際日本学部12の特色	3
カリキュラム概要	4
ポップカルチャー研究領域	5
視覚文化研究領域	6
社会システム・メディア研究領域	7
国際関係・文化交流研究領域	9
国際文化・思想研究領域	11
日本文化・思想研究領域	12
日本語研究領域 日本語	13
英語研究領域 英語	15
総合教育科目 第二外国語	19
演習(3・4年)	20
海外留学プログラム	21

“Multicultural interactions” make the world go round.

学部長メッセージ

「日本と世界をつなぐ」力を身につける。

明治大学国際日本学部は、今年で14年目を迎ましたが、いまだに本学部の名前を聞いて「国際」が専門なのか「日本」が専門なのかと、戸惑う人が少なくありません。実はこの名前は、本学部が提案し、実現している新しい大学教育の姿を反映しています。

本学部が目指すのは、日本の魅力を世界的な視座から理解し、世界に向けて発信することができる力、そして世界の事情を日本の視座から理解し、日本への教訓を取り出して、日本に向けて発信することができる力の育成です。つまり日本から世界へ、そして世界から日本へ、「日本と世界をつなぐ」力を育てるのが、私たちの使命です。

もちろん「日本と世界をつなぐ」といっても、具体的にはさまざまな方法があります。

たとえばツーリズムの仕事、特に海外から日本を訪れる人々をもてなす仕事をしたいと考えている人は、ツーリズムマネジメントを勉強しつつ、日本のポップカルチャーについても学ぶことで、アニメやマンガをきっかけに日本に興味をもった旅行者たちに、より楽しんでもらえるプランを提供できるようになるでしょう。アフリカの発展途上国への援助に貢献したい人は、アフリカの状況について学ぶとともに、将来、現地の子どもたちが日本に興味をもつ力になれるよう、日本語を教えるた

めの技能を身につけると良いかもしれません。また日本で英語の教職につきたいと思っている人は、そのための技能の取得に加えて、世界各地の文化的多様性や多文化共生について学ぶことで、英語の教育を通じてより豊かな視野をもつ子どもたちを育てる教員を目指すことができます。

つまり本学部では、決まりきったカリキュラムの中で、あるひとつの分野の専門性を高めていくのではなく、自分だけの「日本と世界をつなぐ」力を想定し、そのために必要な知識をさまざまな専門分野から横断的かつ複合的に学びます。もちろんその学びの中には、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上や、長期・短期のさまざまな形での海外留学・インターンシップ・ボランティアの経験も含まれています。

それはさながら色とりどりの絵の具が並んだパレットです。本学部の学生は、単に「教養を身につける」ために漫然と色を塗っていくのではなく、「日本と世界をつなぐ」という明確な目的意識のもとで、それらの絵の具を組み合わせて、自分だけのオリジナルな絵を描いていくのです。

新型コロナウイルス感染症は、私たちに大きな災禍をもたらしました。しかしそれはまた私たちにとって、これまでの大学教育や国際交流のあり方を見直す契機になりました。この経験をポジティブに捉えて、ともに前に進んでいきましょう。

〈クール・ジャパン〉を科学する

国際日本学専門科目

ポップカルチャー研究領域

世界的に親しまれ、政府からも輸出文化や観光資源として注目される

日本の多様なポップカルチャーを多角的にとらえ、

国内外のビジネスや文化交流の場で有用な教養とします。



現代文化を解明する

国際日本学専門科目

視覚文化研究領域

情報を視覚化する時代に生まれた現代文化（美術、ファッション、演劇、映像など）

の本質を解明し、その特性とつきあい方を考えます。



科目紹介 | アニメーション文化論

宮本 大人 教授

この科目を受講する人に興味をもってほしいのは、日本のアニメーションにどういう特徴があるのか、それはどのようにつくれられているのか、日本以外の国々にどういうアニメーションがあるのか、アニメーションを分析的に見ることの面白さ、といったことです。こうしたテーマに、講義を聞くだけでなく、受講者自身によるグループ発表の形で取り組んでもらうのがこの科目の特徴です。自分たち自身で調べ、考え、その結果をプレゼンテーションする訓練にもなる科目です。主体的に積極的な取り組みが求められる、大学らしい授業になっています。



科目一覧

- | | |
|---------------|-------------|
| 漫画文化論A・B | 特撮の歴史と技術A・B |
| アニメーション文化論A・B | 日本漫画史A・B |
| 日本先端文化論A・B | ジェンダーと表象A・B |
| 現代都市とデザインA・B | |

学生コメント | 漫画文化論 藤本 由香里 教授

私は日本のポップカルチャーを学ぶため、国際日本学部に入学しました。漫画文化論では、春学期に日本の漫画の表現方法を学び、秋学期にはアジアやヨーロッパ、アメリカなどの漫画市場の特色を学びます。海外から来る講師の貴重な講義を受けることができたり、世界各国の漫画を手にとって見ることができたりするなど、この講義でしかできない体験がたくさんあります。日本のポップカルチャーのひとつである漫画について、日本からの視点だけでなく国際的視点からも学ぶことができるうえ、世界の漫画事情についても知ることができます。漫画をあまり読まない私でもわかりやすく楽しく学ぶことができ、もっと漫画を読んでみたいと思える講義です。日本のポップカルチャーを学びたい！という方にはおすすめです。



2年 我那覇 莉央
沖縄県立
那覇国際高等学校卒業



漫画文化論、
ジェンダーと表象
藤本 由香里
教授

東京大学教養学科卒業後、筑摩書房で編集者を務める傍ら、コミック・女性・セクシュアリティなどについて評論活動を行う。講談社漫画賞・手塚治虫文化賞・メディア芸術祭マンガ部門などの選考委員を歴任。米沢嘉博記念図書館の開設にもかかわり、東京国際マンガ図書館設立に尽力。著書に『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)ほか多数。



日本先端文化論、
現代都市とデザイン
森川 嘉一郎
准教授

早稲田大学大学院修了(建築学・修士)。ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術祭日本館コミッショナーとして「おたく: 人格=空間=都市」展を制作(星雲賞)。米沢嘉博記念図書館の開設にかかわり、現在、マンガ・アニメ・ゲームのアーカイブとなる東京国際マンガ図書館の設立準備を推進。著書に『趣都の誕生』(幻冬舎)、企画構成を務めた展示に『MANGA↔TOKYO』(NTT出版)など。



日本漫画史、
アニメーション文化論
宮本 大人
教授

漫画の歴史を研究しています。講義では漫画とアニメーションを、ゼミではポピュラーカルチャー全般を扱っています。明治大学にある漫画の図書館、米沢嘉博記念図書館で展示の企画構成などもやっています。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。共著に『マンガの居場所』(NTT出版)など。

科目紹介 | 舞台芸術論 萩原 健 教授

日本では、14世紀から能や狂言が、17世紀から歌舞伎や人形浄瑠璃(文楽)が、そして19世紀後半以降、西洋との影響関係の中で現代演劇が発展を見せていましたが、これらすべてが、21世紀の現在も、実際の舞台で観られます。舞台芸術シーンのこうした多様性は世界でも類を見ません。現在、日本を発信地として、視覚文化にかかわるさまざまな新機軸が仮想空間上で展開される一方、日本独自の「生(なま)」の舞台芸術=〈ライヴのソフトパワー〉に(目で)ふれることの重みも増しています。実際、上記ジャンルの舞台は日本国外で繰り返し公演され、あるいは、その観劇を目的にした訪日観光客も少なくありません。この授業では、日本を発祥とする主な舞台芸術について知り、説明できるようになることを目指します。(授業は英語で行われます)



舞台芸術論、
日本とドイツ
萩原 健
教授

慶應義塾大学・東京大学で学び、ボン大学・ベルリン自由大学(ともにドイツ)に留学および研究滞在。元早大坪内博士記念演劇博物館助手。専門は現代の舞台芸術(主に日本とドイツ)。著訳書に『演出家ピスカートアの仕事』(単著)、『パフォーマンスの美学』(共訳)ほか。舞台通訳、字幕翻訳・制作・操作(萩原ヴァレントヴァイツィット健)。

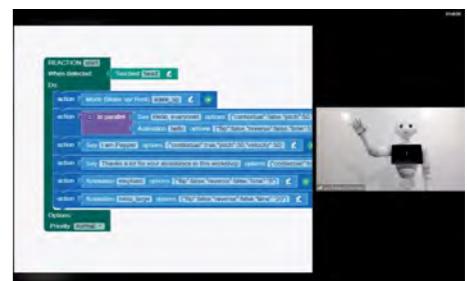
Topics | 特別講義

2020年11月26日、国際日本学部特別講義「Robotics and Performing Arts: The Nonhuman Challenge (ロボティクスと舞台芸術: ノンヒューマンの挑戦)」が開催されました(オンライン、英語)。Gentiane Venture氏(東京農工大学)の講演と、同氏の研究室メンバーが加わったワークショップの二部構成でした。

講演では、ロボットが日常生活でますます身近になる一方、舞台芸術での、人物の感情を示す特定の動きが、ロボットに与えられるコマンドに似ることが指摘されました。ロボットが“演じる”ことは可能か、可能ならどのようにか、何がロボットをロボットたらしめるのか、むしろ人間の感情表現がロボット化していないか、といったさまざまな問い合わせされました。

ワークショップでは、台詞や動きなどのコマンドによる寸劇をロボットが“演じる”様子が示されました。並行して質疑応答が行われ、ロボット間や、ロボットと動物の間の相互作用の可能性ほかについて、活発な議論が展開されました。

遠隔会議システムを使っての開催ということもあり、テクノロジーの劇的な進化が拓く可能性を、多様な形で予感させる内容でした。



3

最先端の日本の産業・社会の特質を知る

国際日本学専門科目

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤をなす最先端の企業・産業・社会について
ハード・ソフト両面から考察し、日本の社会システムやメディアと情報、
経営の特質などの優れた点を明確にします。

現代日本の基盤となっている社会・経渉システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質と優位性について
知見を深めています。同時に、それらを世界に発信し、ビジネスやインフラとして普及させていくための新たな方法を求めていきます。



〈科目一覧〉

日本社会システム論A・B	日本の教育A・B
ジャーナリズム研究概論	テクノロジーと日本社会A・B
広告とメディアA・B	日本のビジネス文化A・B
クリエータービジネス論	インターネットと社会A・B
ツーリズム・マネジメントA・B	コンテンツ産業論A・B
グローバル化と金融サービス業A・B	日本的なものづくり論A・B
ホスピタリティ・マネジメント論A・B	日本技術移転史A・B
日本の政治A・B	知財文化マネジメントA・B

日本流通史A・B
社会保障論A・B
経済団体研究A・B
都市交通システム論A・B
日本のジャーナリズムA・B
サービス・マーケティングA・B
日本人の行動モデルA・B
国際マーケティング論A・B



日本のビジネス文化、
知財文化マネジメント
小笠原 泰
教授

東京大学卒、シカゴ大学社会科学院および経営大学院修了。戦略・グローバル・ICTを軸に知的刺激を追求。McKinsey & Co. 米国アグリメジャーのCargill社(米国本社、欧州法人勤務)、NTTデータ経営研究所パートナーを経て、2009年より現職。専門は、組織文化論、社会システムデザイン論、社会テクノロジー論。著書に『CNCネットワーク革命』『なんとなく、日本人』『日本型イノベーションのすすめ』『2050 老人大国の現実』などがある。



日本的なものづくり論
吳 在煥
教授

ソウル大学経済学部卒業後、東京大学大学院経済学研究科にて修士・博士課程修了(経済学博士)。リヨン大学「東アジア研究所」研究員、東京大学ものづくり経営研究センター特任准教授などを経て、2008年より現職。専門は技術・生産管理論、国際経営論。著書に『ものづくり経営学』(共著)、『「日中韓」産業競争力構造の実証分析』(共著)などがある。



ジャーナリズム研究概論、
日本のジャーナリズム
酒井 信
准教授

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程修了。博士(政策・メディア)。慶應義塾大学助教、文教大学准教授を経て現職。専門はメディア文化論・ジャーナリズム論。著書に『メディア・リテラシーを高めるための文章演習』(左右社・2019年)、『吉田修一論 現代小説の風土と訛り』(左右社・2018年)、『最後の国民作家 宮崎駿』(文春新書・2008年)など。



広告とメディア
小野 雅琴
専任講師

中国・武漢大学外国语文学部を卒業した後、慶應義塾大学大学院に進学。同大学大学院商学研究科後期博士課程修了。博士(商学)。株式会社博報堂にて、ストラテジックプランニングディレクター、上席研究員を経て現職。専門は広告論など。著書に『マーケティング・コミュニケーション大辞典』(分担執筆)などがある。



ホスピタリティ・
マネジメント論
Quek, Mary
専任准教授

Quek Mary is originally from Singapore. She is a graduate of the National University of Singapore (FASS), majoring in Economics and Japanese Studies. She was awarded her MSc in International Hotel & Tourism Management and her PhD in Hotel Management from Oxford Brookes University in the UK. She has worked in Japan, Singapore, the UK and the USA in the hotel, travel and education sectors. Her research interests include the business histories of international hotel companies, and more recently, Singapore coffee culture, and tourism development in Singapore and Japan.



科目紹介 | インターネットと社会

岸 磨貴子 准教授

インターネット社会では、知識はもはや個人や組織、専門誌などの所有物ではなく、ネットワーク上の共有物になりつつあります。また、知識は専門家が生み出した普遍的な事実だけではなく、誰もが創造し発信できるものになりました。春学期(A)では、心理学や社会学の理論や方法論を参考にしながら、インターネット社会を多角的な観点から読み解いていきます。秋学期(B)では、社会の課題をテーマとしてさまざまなテクノロジーを活用した解決方法を、具体事例をもとに学びます。



分身型ロボット OriHime を用いた難民の教育支援
(本学学生によるトルコのシリア難民との実践研究)



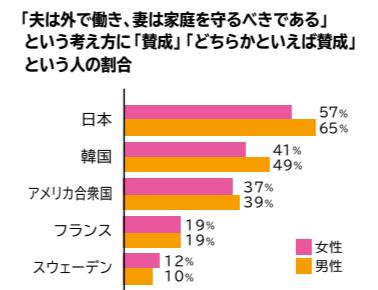
インターネットと社会、
ICTベーシック、
メディアリテラシー
岸 磨貴子
准教授

国際ボランティアとしてシリアの国連パレスチナ難民救済事業機関で2年間教育開発に従事。教育におけるICT活用に关心をもち、関西大学大学院へ進学。博士号(情報学)。トルコ、シリア、ミャンマー、インド、パングラデシュなど海外の教育機関、政府機関、NGO/NPOと連携して教育実践に取り組んできた。著書は『大学教育をデザインする』。

科目紹介 | 日本社会システム論

鈴木 賢志 教授

世の中には、私たち日本人にとっては「当たり前」でも、海外の人から見ると「不思議」ということがたくさんあります。そしてそういうことは、日本に長く住んでいる人なら、当然、説明できると思われています。「そんな問題、受験に出なかったからワカラナイ」なんて答えた、笑いものです。「日本社会システム論」では、そんな日本のさまざまなシステムについての理解を深めます。日本のシステムは諸外国と比べて何が特別なのか、またそのようなシステムは、日本人の価値観や日本企業の行動とどのように結びつけられるのかを論じていきます。



資料 内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」、2011年



日本社会システム論、
ヨーロッパ政治経済論
鈴木 賢志
教授

1992年東京大学卒業、(株)富士総合研究所、英国ロンドン大学を経て2000年英国ウォーリック大学PhD取得。1997年から10年間スウェーデンのストックホルム商科大学欧洲日本研究所に勤務。専門は政治経済学、社会心理学。日本と北欧の社会システムや人々の行動パターンに関する論文を多数発表している。

学生コメント | ツーリズム・マネジメント

佐藤 郁 専任講師

ツーリズムというと、国境を越えた異文化交流やインバウンドによる経済効果といった華やかなイメージがありました。しかし、この授業を履修して、観光には経済、環境、社会、文化の面でジレンマが潜んでいることを知りました。ツーリズムはさまざまな資源と多くの人々によって成り立っているため、利益の拡大に伴い、この4つの面に与える負の影響も大きくなってしまいます。授業では、ツーリズムの基本的な知識はもちろん、国内外のツーリズムの実態や観光業が直面している社会問題について学ぶことができます。観光地の人々の生活や環境を破壊することなく、受け入れ側と訪問側双方にとって有意義なツーリズムを進めていくにはどうすればよいかということを考えさせられる授業です。



2年 松村 有理恵
神奈川県立
厚木高等学校卒業



ツーリズム・マネジメント
佐藤 郁
専任講師

津田塾大学学芸学部卒業後、(株)ジャルパック入社。ロンドン大学大学院(UCL)空間計画学修士課程、立教大学大学院観光学研究科博士課程修了。博士(観光学)。立教大学観光学部兼任講師を経て現職。専門は観光学。主に英国を中心に、ツーリズムを通じた地域連携や異文化理解など、観光のもう「力」をテーマに研究を行う。

科目紹介 | コンテンツ産業論

田中 絵麻 専任講師

コンテンツ産業には、文化的側面と産業的側面があります。コンテンツは経験財としての特性をもち、ヒットするかどうかも不確実性が伴います。近年では、コンテンツのデジタル化により、プロードバンド網・モバイル網での流通も増加しています。コンテンツ産業の構造について、個別産業(出版、映画、ゲーム、音楽)を巡る制度的枠組みと法規制、ビジネス・モデルとその変化、振興政策のほか、ファン文化、リアル・イベントの人気といった現象にも注目しています。国際比較の観点から日本のコンテンツ産業の特徴も考察します。



テクノロジーと日本社会、
コンテンツ産業論
田中 絵麻
専任講師

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻・博士課程修了(博士(学術))。財団法人国際通信経済研究所、一般財団法人マルチメディア振興センターを経て2019年より現職。専門は、ICT政策、コンテンツ産業論。著書「米国における通信法の適用範囲を巡る議論と政権交代による影響の考察」(2017年「情報法制研究」)。

国際社会および国際関係を学ぶ

国際日本学専門科目

国際関係・文化交流研究領域

世界をリードする人材に必要な国際関係や異文化交流の基礎を体得し、国際社会のさまざまな現象をしっかりと見つめます。世界で活躍する教授陣が実践的な授業を展開します。

「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係関連の科目を充実させています。また、多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるよう、異文化リテラシーを高め、来るべきダイバーシティ社会の基礎を学びます。



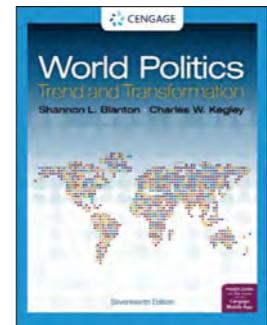
科目一覧

国際関係論A・B	異文化間教育学A・B
国際経済史A・B	海外留学入門A・B
平和学	国際教育交流論A・B
アジア太平洋政治経済論A・B	日本とドイツA・B
東アジア地域研究A・B	世界のなかのアフリカA・B
多文化共生論	東南アジア地域研究A・B

ダイバーシティと社会A・B
ヨーロッパ政治経済論A・B
インド経済論A・B
アフリカと近現代世界A・B
移民政策論

科目紹介 | 国際関係論 Vassiliou, Svetlana 教授

本授業は、20世紀の国際政治に焦点を当て、国際関係論の理論と歴史を学生に紹介することを目的としています。国際関係論の主な学派を取り上げ、その主要理論により歴史的事件や現在の政策課題を解明することで、学生が現在の国際関係を理解し説明する分析的枠組みを身につけることを目指しています。取り上げるトピック：国際関係論の主な理論、両世界大戦および冷戦における列強間の対立と関係、旧ソ連圏の民主化、冷戦後の国際関係の主要な傾向、グローバリゼーション、グローバルな課題、今後の国際秩序。授業は英語で実施します。



国際関係論、日本の政治
Vassiliou, Svetlana
教授
旧ソ連ウクライナ生まれ、ロシア育ち。1994年に米国に移住。2002年より日本に滞在。米国のJohns Hopkins SAISでのMA(International Relations)およびJapan Studies)取得後、法政大学大学院での博士号(政治学)取得。法政大学やテンブル大学(TUJ)での政治、国際関係の講義、2008～2011年の日本エネルギー経済研究所での研究活動の後、2011年4月より現職。専門は日ロ関係、北東アジアのエネルギー問題、日本外交。



海外留学入門、国際教育交流論
小林 明
准教授
留学生の受け入れ・送り出し担当の大学職員として勤務する傍ら、大学の国際教育交流を支援するNPO国際教育交流協議会の活動を通じて大学教職員の養成とネットワークづくりに携わる。約8,000人の学生を米国留学させた経験および同国国務省のEducationUSAのアドバイザーを経て、留学促進と留学の効果測定に关心をもっている。



アジア太平洋政治経済論
金 ゼンマ
准教授
高麗大学国際大学院(MA-Area Studies)、一橋大学大学院法學研究科国際関係博士課程修了(博士[法學])。一橋大学研究員、早稲田大学助教などを経て、2014年より現職。専門は国際政治経済、アジア太平洋国際関係論。著書に『Japan and East Asian Integration』(単著)、『日本の通商政策転換の政治経済学』(単著)などがある。



科目紹介 | 異文化間教育学 横田 雅弘 教授

異文化間教育の学習は、相手について知ることだけではありません。実際に異文化状況で自分はどう感じるか、どう行動するかは、「相手の文化によって決まる」側面のほかに、「自分の文化や性格によって決まる」側面があるからです。異文化間リテラシー(異文化状況で自分を発揮する力)を高めるには、まず自分自身の理解が大切です。この授業は教員の話を聞くという一方的な講義ではありません。参加者は、交流分析の理論、心理テスト、異文化シミュレーション・ゲーム、ケース・スタディ、外国人留学生を交えた多文化のエンカウンター・グループなどを学び、その体験を通して、互いに協力しながら、それぞれが「自分に気づく」ことに迫ります。



異文化間教育学

横田 雅弘
教授

ハーバード大学教育学大学院カウンセリング心理学にて修士号、東京学芸大学にて博士号(学術)取得。専門は異文化間教育学。留学生カウンセリング、留学生政策、まちづくり、偏見低減のためのヒューマンライブラリー(人を貸し出す図書館)にかかわる。現在は中野区でダイバーシティのまちづくりに取り組む。元異文化間教育学会理事長。主著に『留学生アドバイジング』、『ヒューマンライブラリー』など。

科目紹介 | 多文化共生論 山脇 啓造 教授

日本に暮らす外国人は、1990年代以降、大きく増加し、約300万人になっています。2018年には、新たな外国人材受入れのために入管法も改正されました。グローバル化や少子高齢化の進展によって、外国人の増加と定住化はさらに進んでいくことが予想されます。そうした中で、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め、対等な関係を築こうとしながらともに生きる多文化共生社会の形成が、今後の日本にとって大きな課題となっています。この講義では、全国の外国人が多く暮らす地域を取り上げ、多文化共生の地域づくりについて考察します。その際、自治体の施策を中心に取り上げますが、市民団体、学校、大学、企業など、地域社会のさまざまな担い手が果たす役割にも注目します。



多文化共生論、
移民政策論

山脇 啓造
教授

コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了。専門は移民政策・多文化共生論。研究成果を実践にいかすため、総務省、法務省といった国や東京都、愛知県などの地方自治体の外国人施策関連委員を歴任。主著に『新 多文化共生の学校づくり—横浜市の挑戦』(共編、明石書店)など。

科目紹介 | 世界のなかのアフリカ 溝辺 泰雄 教授

アフリカ(サハラ以南アフリカ)は現在、急速に変貌を遂げつつあります。依然として深刻な貧困問題が存在する一方で、都市部を中心に一般にも情報通信技術(ICT)が普及し、政治の民主化も着実に浸透しつつあります。「世界のなかのアフリカ」は、こうした変わり続ける「アフリカの今」をグローバルの視点とローカルの視点の両面から学びます。アフリカを含む英語圏のニュースメディアの記事や映像資料などを使用して、食糧・環境問題や地域間紛争などアフリカが直面する諸問題や、発展を続けるビジネス分野の動向などを深く考察していきます。



世界のなかのアフリカ、
アフリカと近現代世界

溝辺 泰雄
教授

専門は、アフリカ近現代史、アフリカ地域研究。大阪外国语大学院言語社会研究科修了(博士[学術])。ガーナ国立ガーナ大学大学院アフリカ研究科留学。日本学振興会特別研究員PDなどを経て現職。これまでに訪れたアフリカの国は10カ国以上。変貌する「アフリカ」の姿をローカルとグローバルの視点から見つめ続けている。

科目紹介 | ダイバーシティと社会 佐藤 郡衛 特任教授

10年近く前に寿司屋さんに入った時のことです。目の前の板前さんが外国人で驚いたことを覚えています。お寿司は日本の伝統的な食であり、お寿司を握るのは当然「日本人」という私の固定的なイメージが揺らいだからにほかなりません。いま、日本社会は、多様化が急速に進んでいますが、その多様化をどのように受け止めているでしょうか。こうした問題を「ダイバーシティ」という視点から考えていきたいと思います。この授業では、「ダイバーシティ」についての基礎的な学習、異文化理解のためのスキルの習得、そして公正な社会づくりのための課題を具体的な事例に則して考えていきます。



ダイバーシティと社会

佐藤 郡衛
特任教授

東京学芸大学に長年勤務し、国内外の200校をこえる学校でフィールドワークを実施。外務省や文部科学省の審議会委員などを務め、小・中・高校の国際化を推進する政策にも携わる。専門は、異文化間教育学。著書に『国際理解教育-多文化共生社会の学校づくり』、『異文化間教育-文化間移動と子どもの教育』などがある。

5

世界の文化・思想を深く学ぶ

国際日本学専門科目

国際文化・思想研究領域

世界のさまざまな地域の現状と歴史、そして世界の芸術、宗教、文化、思想について、その由来から深く学びます。
それが世界を知り、日本を知る基本となります。



世界の各地域の政治・経済・歴史、世界の文学、映画、芸術、宗教、思想、文化などについて一流の教授陣のもとで古典から現代の最新状況にいたるまで、幅広く修得します。

〈科目一覧〉

- 映画史概論A・B
- 比較文化学A・B
- フランス文化論A・B
- ラテンアメリカの歴史と文化A・B
- 東アジア芸術論A・B
- 映像文化論A・B
- 宗教と哲学A・B
- 東アジア文化交流史A・B
- 比較宗教論
- イスラーム史A・B

- ヨーロッパ都市風俗論A・B
- 近現代イギリス研究A・B
- 現代アメリカ論A・B

6

日本の文化・思想の源を学ぶ

国際日本学専門科目

日本文化・思想研究領域

日本の文化・思想について、その根源から学んでいきます。
日本の大学で学んだ者が世界で活躍するためには、
ニッポンについてしっかりと説明できる見識を身につけなければなりません。



日本人や日本に留学経験のある者が外国に行くと、必ず日本の社会や文化についてたずねられます。今後、グローバル化がさらに進展する時代の中で、日本の大学で学んだ者が世界で活躍するためには、日本の文化を発信する能力が不可欠です。そのためには思想・哲学・文学から伝統文化までその原典にふれ、日本の心の源を学ぶことが大切です。

〈科目一覧〉

- 武道文化論A・B
- 近現代日本文学A・B
- 歌舞伎・能の美学
- 文化資料学
- 武道思想史
- 刀剣文化論
- 海外日本研究事情
- 江戸学A・B
- 日本伝統工芸研究
- 日本表象文化論A・B
- 日本の文化伝統A・B
- 日本映画文化論A・B
- 日本の哲学A・B
- 伝統芸能論
- 日本の宗教A・B

学生コメント | 映画史概論 濑川 裕司 教授

チャップリンという有名なコメディアンを知っていますか？ちよび髭で帽子をかぶり、手にはステッキをもってモノクロ映画の中でおかしな動きをする、あのチャップリンです。しかし、面白おかしい彼の映画が単なる娯楽ではなく、社会への深刻なメッセージを表すものだとしたら？—映画史概論は、比較的新しいメディアである映画の発展の道筋とともに、各時代におけるその「メディア」としての役割や影響について、実際に映画を視聴しながら考察していく授業です。各回のテーマは、初期のモノクロ作品からハリウッド映画やコメディ、ホラー、西部劇など多岐にわたり、さまざまな切り口で時代とのかかわりを知ることができます。映画に興味のある人はもちろん、歴史が好きな人にとっても面白い授業だと思います。



2年 古岡 奈津香
埼玉県さいたま市立
大宮北高等学校卒業

映像文化論、 映画史概論 瀬川 裕司 教授

東京大学文学部卒業、同大学大学院人文学科研究科修士課程修了。ベルリン自由大学留学、横浜国立大学教育学部助教授、明治大学理工学部教授などを経て2008年より現職。文学博士、専門は映画学およびドキュメンタリ文化史。『ナチ娯楽映画の世界』『ビリー・ワイルダーのロマンティック・コメディ』をはじめ著訳書多数。

武道文化論、 スポーツ・身体運動文化 長尾 進 教授

1958年、熊本県生まれ。1983年、筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。1993年、明治大学商学部助手。2002年、商学部教授。2008年より現職。研究領域は、身体教育学、武道論。現在の研究テーマは、「武道と“国際”」。著書に『剣道を知る事典』(東京堂出版、共著)、『武道文化の探求』(不昧堂出版、共著)。剣道教士八段。

日本の文化伝統 渡 浩一 教授

埼玉大学教養学部卒業後、東京都立大学大学院で日本史、東洋大学大学院で国文学を専攻。明治大学政経学部教授を経て現職。専門は日本文化史で、「日本人の信仰と文化」「外国人の見た日本・日本人」「外来文化の受容と日本の変容」を主要研究テーマとする。著書に『室町物語草子集』(共著、校注・訳・解説)、『お地蔵さんの世界』など。



ラテンアメリカの歴史と文化、スペイン語
旦 敬介
教授

日本を代表するラテンアメリカ文学の専門家。東京大学を卒業後、メキシコに学んだ後、ラテンアメリカ文学の翻訳をしながらスペイン、ケニア、ブラジルで暮らし、アフロ・ブラジル研究に目覚めた。現在の関心は、ラテンアメリカとアフリカの人と物と情報の交流史。著書『旅立つ理由』、『訳書バルガス=リヨサ『ラ・カタドラル』の対話』、『チャトワイン『ウイダーの副王』』など。



比較文化学、
東アジア文化交流史
張 競
教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了(Ph.D.)。國學院大學助教授、明治大学法学部教授、ハーバード大学客員研究員などを経て現職。研究領域は比較文学、比較文化学、比較文化史。近著は『夢想と身体の人間博物誌—総想と現実の東洋』(青土社)、『詩文往還—戦後作家の中国体験』(日本経済新聞出版社)、『時代の憂鬱 魂の幸福—文化批評というまなざし』(明石書店)などがある。



フランス文化論
鵜戸 聰
准教授

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士後期課程修了。博士(学術)。鹿児島大学法文学部准教授を経て現職。専門はアラブ世界を中心としたフランス語圏文学だが、台湾語文化やチベット圏の現代文学など、言語文化に広く関心がある。共著に『国民国家と文学』、『訳書にカエル・ダーウィ』『もうひとつの「異邦人」』など。



近現代日本文学
小谷 瑛輔
准教授

東京大学大学院人文学社会系研究科博士課程単位取得退学。博士(文学)。富山大学人文学部准教授などを経て現職。専門は日本近代文学。著書に『小説とは何か?—芥川龍之介を読む』(ひつじ書房)、共著に『テクスト分析入門』(ひつじ書房)、『芥川龍之介ハンドブック』(鼎書房)、『芥川龍之介『侏儒の言葉』(注釈・文春文庫)など。



日本表象文化論
眞嶋 亜有
専任講師

国際基督教大学大学院比較文化研究科博士課程修了(学術博士)。日本学術振興会特別研究員、ハーバード大学ポストドクトラルフェローなどを経て現職。専門は近現代日本の社会・文化・心性、比較文化論、生活文化論。著書に『「肌色」の憂鬱—近代日本人の種族体験』(中公叢書)、『水虫—近現代日本の栄光とその痕跡』(論文)など。



日本の宗教、
比較宗教論
Ward, Ryan M.
専任講師

1974年米国シアトル生まれ。東京大学大学院人文社会系宗教史博士課程満期退学。文学修士。東京大学死生学研究室特別研究員を経て現職。国際基督教大学、東京農業大学、東京国際大学の非常勤講師を歴任。専門は比較宗教学、近代日本仏教史。英語と日本語の論文は多数。

科目紹介 | 日本の哲学

美濃部 仁 教授

明治時代、西洋の哲学にふれた日本の思想家たちは、その凄さに感銘を受け、それを懸命に学びますが、自分たちが大切にしてきたものが、それによって捉え切れないという感じを受けることがあったようです。少からぬ思想家が、自分たちがどういものを大切にしているのか、西洋の長い伝統の中で強靭な思惟によって練り上げられた概念を媒介としつつ、もう一度かえりみています。たとえば「無心」とはどういうことでしょうか。それは心がないということではありません。心が無であること、あるいは無が心であることである、とさあたっては言えるでしょう。しかし、それはどういうことでしょうか。授業では、そういうことについて考えたいと思っています。



西田幾多郎筆「無」

グローバル化の時代だからこそ、日本語を客観的に見つめ、学ぶ

国際日本学専門科目

日本語研究領域

日本語には、世界の諸言語と比較すると、ユニークな点がたくさんあります。日本語を体系的に学び、日本語を教える立場からも日本語を見つめることによって、日本語の面白さや難しさを再発見し、日本語に関する高度な教養と専門知識を身につけていきます。

国際日本学専門科目

日本語研究領域

日本を学ぶにはまず日本語から。グローバル化の時代だからこそ、日本語を世界の一言語として客観的に捉え、正しい日本語の使い手になることがとても大切です。日本語についての高度な教養や専門知識を身につけることを目指します。

〈科目一覧〉

- 日本語学A・B
- 日本語の歴史A・B
- 日本語教育学（文法）A・B
- 日本語教育学（語彙）A・B
- 日本語教育学（音声）A・B
- 日本語教育実践科目
- 外国語としての日本語教授法



日本語学、
日本語の歴史
田中 牧郎
教授
東北大学大学院文学研究
科博士課程単位取得退
学。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課
程修了。博士（学術）。専門は、日本語学。国立国語
研究所で、言語コーパスの構築や、わかりにくい言
葉を言い換えるプロジェクトに従事した後、日本語
がどのようにしてできてきたかを研究している。
著書に『近代書き言葉はこうしてできた』（岩波書
店）、『図解日本の語彙』（三省堂、共著）など。

日本語科目 日本語

日本語を体系的に知り、日本語の達人の養成を目指します。「読む」「書く」「聞く」「話す」の基礎能力を向上させるプログラムを展開。日本語教育学を専門研究領域とする第一人者の教員が設計し、きめ細かな教育を行います。

〈科目一覧〉

- | | |
|---|-----------------|
| Introductory
Japanese (General) | 中上級日本語（語彙・漢字） |
| Introductory
Japanese (Vocabulary/Kanji) | 上級入門日本語（総合） |
| 初級日本語（総合） | 上級入門日本語（語彙・漢字） |
| 初級日本語（語彙・漢字） | 上級日本語（読解）I・II |
| 中級入門日本語（総合） | 上級日本語（聴解）I・II |
| 中級入門日本語（語彙・漢字） | 上級日本語（文章表現）I・II |
| 中級日本語（総合） | 上級日本語（口頭表現）I・II |
| 中級日本語（語彙・漢字） | 総合日本語A・B |
| 中上級日本語（総合） | 専門日本語入門A・B |
| | 日本語能力試験対策（中級） |
| | 日本語能力試験対策（上級） |





日本語教育学、
初級日本語
小森 和子
教授
東京大学大学院総合文
化研究科博士後期課程
単位取得退学。博士（学術）。東京大学、九州
大学、横浜国立大学、東北師範大学（中国）など
で日本語教育に従事し、国際交流基金日本
語試験センターで日本語能力試験の開発・分
析を担当。専門は第二言語習得論。最近は、
語彙の習得過程に及ぼす母語の影響と言語
能力の測定に専門をもっている。



日本語教育学、
Introductory Japanese、
日本語能力試験対策
柳澤 絵美
准教授
上智大学大学院理工
学研究科博士後期課
程修了。博士（学術）。アメリカの中等教育
機関、および、東京大学、東京外国语大学、
慶應義塾大学、亞細亞大学などの日本国内
の大学で日本語教育に携わる。専門は日本
語音声学。日本語の特殊拍の研究、日本語
学習者のための効果的な発音指導法の開
発を行っている。



日本語教育学、
上級日本語、初級日本語
安高 紀子
特任講師
九州大学大学院比較社
会文化学府修士課程修
了。JICA青年海外協力隊日本語教師隊員と
して、コートジボワール、モロッコの高等教
育機関、および、東京外国语大学、東京海洋大学、聖
心女子大学などで、日本語教育に携わる。国際
交流基金日本語試験センターで日本語能力試
験の試験問題作成を担当。日本語学習者の会
話能力の測定と評価に専門をもっている。

科目紹介 | 日本語教育学 小森 和子 教授 柳澤 絵美 准教授 安高 紀子 特任講師

この授業では、「日本語」を「国語」という科目としてではなく、「世界の中の一言語」として捉えるところからスタートし、日本語が世界のほかの言語と比較して、どのような点で類似し、どのような点が独特なのかについて、考えていきます。授業では、日本語教師として国内外で豊富な経験を有する3人の教員が、それぞれの専門である文法、語彙、音声の3領域に分かれ、「日本語教育学（文法）」、「日本語教育学（語彙）」、「日本語教育学（音声）」を担当します。授業の中では、日本語学習者が起こす日本語の間違い、学習者が疑問に感じている不思議な日本語の表現、学習者の言語と日本語の違いなど、日本語教師が教育現場で遭遇する実際の例を紹介しながら、「普段何気なく使っている日本語」を「外国語としての日本語」と捉え、グローバルな観点から日本語を学ぶ・教える面白さや難しさについて考えます。日本語教師を目指す人にも、そうでない人にも、日本語を客観的に見つめることで言語に対する感性を磨き、自らの言語学習を振り返る良い機会になるでしょう。



学生コメント | 外国人留学生のための日本語科目

国際日本学部には、外国人留学生のために特化した日本語授業があります。留学生のための日本語科目で学ぶことで、大学での学びに必要な日本語能力を身につけることができました。「読解」と「聴解」での学習により、ほかの講義で先生の話を支障なく聞き取れるようになり、また、文献を読むにかかる時間も減ったと思います。「口頭表現」と「文章表現」のおかげで、自分の考えを自然な日本語で表現できるようになり、講義内の発表とレポートが楽しみになりました。これらの日本語科目は単なる言語

を習得する授業ではなく、大学生が身につけるべき、受信力と発信力を鍛えるきっかけになる場だと考えています。また、日本語は学習のみならず交流にも、英語と同様に不可欠なものだと感じています。クラスには多くの国から来た留学生が集まっているので、日本語を勉強する場でもあり、国際交流の場にもなっています。これからも、日本語能力を磨き、さまざまな人と交流しながら、人生を豊かにしたいと思います。



4年 コウ ブンチン
マレーシア
Muar Chung Hwa
High School卒業

Topics | 「日本語教育人材育成プログラム」

外国语としての日本語教育を学ぶ「日本語教育人材育成プログラム」は国際日本学部ならではの、理論から実践までをカバーしたプログラムです。プログラムは、修了のために必修となるコア科目と、隣接分野から選択する関連科目から成っています。コア科目は日本語と日本語教育を学ぶ科目で、「日本語学」、「日本語教育学（文法・語彙・音声）」、「外国语としての日本語教授法」、「日本語教育実践科目」です。関連科目は国際関係・文化交流、日本文化・思想、英語教育、ポップカルチャーの分野の中から、プログラムの指定する科目を8科目以上履修すれば、どのような組み合わせでとっても構いません。コア科目も関連科目も国際日本学部の専門科目なので、プログラムのためだけに特別に履修する必要はなく、卒業要件を満たしつつ、プログラム修了を目指すことができます。所定単位を修得した修了者には修了証が発行され、国内外において日本語教育関連分野での活躍が期待できます。また、より専門的な日本語教師を目指す人には、大学院国際日本学研究科でさらに研鑽を積む道もあります。

グローバル社会を生き抜く英語力を獲得する

国際日本学専門科目

英語研究領域 英語

母語はほぼ無意識で習得できるのに、なぜ第二言語（英語）を習得するのは難しいのか。どうすれば効果的な英語学習・教育ができるのか。また、そうした言語学などの研究に基づいた英語集中プログラムを実施しています。

国際日本学専門科目

英語研究領域

いまやグローバル社会を生き抜く上で必須の道具となっている「英語」。そもそも私たちは音と文字を使ってどのようにコミュニケーションを行っているのか（英語学）、第二言語習得のメカニズムについて、これまでどのようなことがわかっているのか（応用言語学）、日本語と英語はどのように異なり、その違いがどのように私たちの思考や行動に影響を与えていたのか（社会言語学）、英語学習のプロセスにモチベーション（やる気）や学習方法はどのような影響を与えているのか（心理言語学）、英語にまつわるさまざまな課題について幅広く学んでいきます。

〈科目一覧〉

言語と文化A・B

応用言語学A・B

心理と言語A・B

英語学A・B



学生コメント | 言語と文化 大須賀 直子 教授

この講義では、翻訳を通して日本語と英語を比較し、言語の背景にある文化の違いを学びます。たとえば、比喩やオノマトペ、非言語コミュニケーション、色彩感覚の違い、言語のもつ微妙なニュアンスの違いなどを学び、翻訳の難しさと同時に面白さを知ることができます。さらに、世界の言語誕生や消滅、言語の歴史、言語と社会のかかわりについても理解が深まり、日英言語の比較にとどまらない多様な言語の文化を学ぶことにつながります。講義では、翻訳に挑戦したり、講義テーマに関連する作品を鑑賞したりすることもあり、毎回楽しく学ぶことができます。この講義では、今までにはない新しい切り口で言語を捉えるきっかけが得られると思います。そして、もっと言語にふれてみたいと思うようになります。英語の翻訳が好きな人、外国語を学びたい人、日本語と英語の文化の違いに興味がある人におすすめです。



3年 田村 摩耶
千葉県立
東葛飾高等学校卒業

科目紹介 | 応用言語学

尾関 直子 教授

第二言語習得理論に焦点をあて、人はどのように第二言語を習得するのかについて探求します。日本語の習得は、話し方やリスニングの仕方などをあらためて学習したことがなくとも、日本に生まれて日本で育てば、ほぼ100%の確率で成功したのに、英語の場合は、ネイティブスピーカーに近い能力を習得できる人もいれば、初級レベルにしか達することができなかつた人がいることに疑問を感じたことはありませんか？ その答えをこの授業でぜひ解説してください！ また、外国語教育に興味がある人は、この授業でその基本となる理論を学習しましょう。



応用言語学
尾関 直子
教授
「英語は英語で教える」の高等学校新学習指導要領の作成協力者。中高の教員研修の講師として活躍中。
Indiana University of Pennsylvaniaで言語学および修辞学で博士号取得。著書に『CEFR-Jガイドブック』(共著、2013)、『統合的英語科教育法』(共著、2012)、『成長する英語学習者』(共編著、2010)などがある。

言語と文化 大須賀 直子 教授

ランカスター大学大学院（英国）で言語学の博士号取得。現在の研究分野は、中間言語用論、英語教育、翻訳。論文に「Development of pragmatic routines by Japanese learners in a study abroad context」（『Current Issues in Intercultural Pragmatics』John Benjamins）など。その他TOEIC®などの教材も数多く出版。



心理と言語 廣森 友人 教授

北海道大学大学院修了（博士）。専門は、第二言語習得の心理学。英語を学ぶにはどんな学習方法が効果的なのか、やる気はどうすれば高まるのか、といったテーマを理論実証的に研究。著書に『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』（多賀出版）、『成長する英語学習者：学習者要因と自律学習』（大修館書店）、『英語学習のメカニズム』（大修館書店）、その他論文多数。

英語学 大矢 政徳 准教授

1997年3月、早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了、2002年3月、同大学大学院同研究科教科教育専攻修了。2010年3月、School of Computing, Dublin City University 修了（Master of Science）、2014年、早稲田大学より博士（学術）取得。2011年より白石大学外国語学部教育専攻准教授、2014年10月より同大学同学部准教授。2019年から現職。専門：統語論（依存文法）、コーパス言語学（日英パラレルコーパス）



英語カリキュラムの7つの特長

国際社会で活躍するためには、シチュエーション別に異なる英語を使い分けなくてはなりません。議論の場では、明確で説得力がある自分の主張を展開でき、速いスピードで話されても相手の意見を理解できる能力。発表の場では、専門的な事柄に関して論理的にプレゼンテーションができ、理由や関連事項を詳しく説明できる能力。エッセイやレポートを書く場合は、自分の考えや情報を正確に表現でき、論旨を論理的に展開できる能力が求められます。このような英語力を外国语検定試験の数値で表すと、TOEIC®L&Rなら800点以上、TOEFL iBT®（アメリカやカナダの大学へ留学する際に要求される英語能力テスト）なら80点以上は必要となります。

ます。国際日本学部では、これらのスコアを多くのビジネスシーンをカバーできる英語力の基準と捉え、到達目標として掲げています。これらのスコアは平均的な高校生（TOEIC®L&R411点）が大学に入学して普通に英語を学習していたのでは、クリアすることはほぼ不可能です。みなさんが到達目標を達成できるように、私たちには第二言語習得理論に基づいた科学的な英語カリキュラムを用意しています。英語があまり得意でない人は得意になるように、英語が得意な人はさらに上のレベルを目指せるようにデザインされた、日本でも有数の大学英語カリキュラムです。

1. 英語漬けの毎日

1年次には、「English (Speaking) I・II」、「English (Listening) I・II」、「English (Reading & Writing) I・II」の必修科目の授業をそれぞれ週2回、2年次には、「Advanced Reading & Writing I・II」、「Research Paper Writing」（春学期）、「Speech & Preparation」（秋学期）を週2回、「TOEIC® Preparation I・II」を週1回受講します。2年間にわたり実施されるこの英語集中プログラムで、英語力は確実に身につきます。

5. 統一カリキュラム、統一教材、統一テスト

習熟度が同じレベルの学生なら、クラスが違っていても、同じ教材を同じ進度で勉強し、同じ試験を受けることになります。このシステムがあれば、クラスや先生によって、学ぶ内容、進度、指導法、定期試験が違うということはありません。

6. 約10名のネイティブ・スピーカー専任教員を含む英語教育専門の教授陣

英語カリキュラムを担当するのは、約10名のネイティブ・スピーカー専任教員を含む、英語教育が専門の教員です。ほとんどの教員が、欧米の大学院でMATESL（第二言語としての英語教授法修士号）を取得している教員です。英語教育が専門である教員は、どのように指導すれば、学生が効率よく英語を習得できるかを熟知しています。教室では、文法訳読方式などの言語習得に非効率な指導法は用いません。日本語を介さず、学生に英語のinputを大量に与え、学生がoutputできる機会を限りなくつくりだします。

2. 2年次以降の秋学期は英語圏へ留学（または、夏期語学留学）

2年次以降の秋学期には、英語圏にある国際日本学部の海外提携校へ正規の学生として留学することを目指しています。2020年度は、TOEFL iBT®のスコアがアメリカの大学が要求しているスコアに到達した学生は、1年間の英語学習の後、約180名となりました。2019年度は、約90名の学生が正規の学生として留学しました。また、1年次の夏休みから1ヶ月の語学留学もできます。

3. 豊富な選択科目

必修科目のほかに、Current English、Literature Reading、Practical Drama、Integrated English、TOEIC®やTOEFL®の準備講座など、英語の総合的スキルや関連分野を勉強できる選択科目が豊富に用意されています。選択科目を履修することにより、さらに英語力を伸ばすことができます。

4. 習熟度別の少人数教育

英語の必修科目のクラスは習熟度別に大きく6～7クラスずつ、3つのレベル（Gレベル、Jレベル、Sレベル）に分けられています。たとえば、Jレベルなら、クラスナンバーがJ1でもJ6でも、習熟度に差はありません。また、すべての英語の必修クラスの人数は20名程度の少人数クラスです。したがって、どの英語のクラスでも自分に合ったレベルで、きめ細かい指導を受けられます。

7. 豊富なオフィスアワー

約10名のネイティブ・スピーカーの教員はオフィスアワーも担当します。その間に、学生は教員を訪問し、英語の授業での疑問点について質問したり、学習の仕方のアドバイスをもらったりして、学生が授業以外で英語を多く使えるように工夫されています。普段の授業ではなかなか話すことができない学生は、オフィスアワーを利用して、会話を慣れることができます。



出典：一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2020」の「II-4. 所属学校別受験者数と平均スコア」より

Rugen, Brian D. 専任教授



Brian Rugen (Ph.D., University of Hawaii) is originally from the U.S. His research areas include: literature and language teaching; discourse and identity; and, English language teacher education. As an applied linguist, he is also interested in the discourse of sport, where he uses methods of discourse analysis in examining various aspects of media discourse, sport, and identity.

Ohashi, Louise 特任教授



Louise Ohashi has been an English language educator since 1999, with teaching experience in Japan, Australia, England and Italy. She received her B.A. at Melbourne University and her M.Ed. (TESOL) and Ph.D. (Education) at Charles Sturt University. Her doctoral work and much of her other research focuses on learner autonomy, self-directed learning, learner motivation, and the use of digital technology as a language learning aid.

Davies, Brett J. 特任准教授



Brett Davies received his M.Sc. in TESOL from Aston University (UK) and is currently working towards a Ph.D. in Film Studies through De Montfort University. He has been teaching English for 15 years, with research interests in intercultural communication, and course and materials design. In Film Studies, his research focuses on adaptation and intertextuality in screenplays. His most recent publication examined thematic similarities between works by directors Akira Kurosawa and Lawrence Kasdan.

Ellis, Sara K. 特任講師



Sara Ellis is from Portland, Oregon. She received an M.A. from California State University and an M.A.T. from the University of California, Irvine in 2009. Her research interests include creative writing as a means to foster engagement, reflection, and language acquisition in all areas of learning. She is also interested in American and Japanese popular culture with an emphasis on science fiction and comic books.

Leto, Mario A. 特任講師



Mario Leto is currently working on his doctoral degree in Literary and Critical Studies at the University of Gloucestershire in the UK. His research concentration is in Ecolinguistics where he focuses on the critical analysis of language in online news media about veganism. Other work he has done examines implicit nationalist rhetoric, representations of tourists, and attitudes toward multi-ethnic peoples.

McLoughlin, David A. 専任准教授



David McLoughlin has been teaching English as a Foreign Language (EFL) since 1993. He has a Doctorate in Education from the University of Exeter (UK). His research interests include: motivation in second language learning; self-regulated learning; the role of interest in the self-regulation of motivation; attribution theory and second language learning; and the role of affect in self-directed language learning.

Groff, David K. 特任准教授



David Groff is a native of Philadelphia, Pennsylvania (USA). A graduate of Pennsylvania State University (B. A. in English) and Temple University (M. Sc. in Education), his main research interests are translation studies, traditional Japanese culture and philosophy and their presentation in English, and ways in which meditative practices such as zazen may facilitate language learning. His publications include *The Five Rings : Miyamoto Musashi's Art of Strategy*.

Weinberg, Joel 特任准教授



Joel Weinberg is from Berkeley, California and has been teaching English in Japan since 1997. He is a graduate of the University of California Santa Cruz (B.A. English/American Literature) and Temple University (M.Sc. in Education). His research interests include promoting fluency, motivation, comprehension, and confidence in L2 reading assignments via the integration of technology into the learning process.

Garside, Paul 特任講師



Paul Garside is originally from England and has been teaching English in Japanese universities since 2006. He received his M.Sc. in TESOL from Temple University (Tokyo Campus) and is currently working on a Ph.D. in Applied Linguistics at the same institution. He has a keen interest in all aspects of second language acquisition, although his main area of research is in the development of fluency and interactional competence.



Topics | 英語外部試験の活用と支援体制

英語外部試験の活用

国際日本学部では、2年次修了までの各学期に実習費を使用して英語外部試験を実施しています。これにより現在の英語力や苦手部分を客観的に把握し、その後の学習計画に役立てることができます。また、そのスコアは英語必修科目の習熟度別のクラス分けや成績評価に利用し、カリキュラムとも有機的に結びつけることで学生のモチベーション向上につなげています。

1年次 [秋学期]

TOEFL iBT®

2年次英語クラス
分けに使用

1年次 [春学期]

TOEFL ITP®

1年次英語クラス
分けに使用

学生コメント | 英語教育について



3年 山藤 優花
埼玉県立
熊谷女子高等学校卒業

国際日本学部の英語授業の特色は、たくさんのアウトプットが求められ、実践的である点です。私自身、高校時代は受験英語の学習が中心だったため、入学当初は英語を話すことに自信がありませんでした。しかし、先生方やクラスの友人たちの、発言を歓迎する雰囲気の中でコミュニケーションを経験するにつれ、英語を使うことに躊躇がなくなり会話を楽しめるようになりました。質問をしやすい環境も魅力のひとつです。些細な質問から英文添削の依頼まで、親身に応じてくれる先生方のおかげで英語を使うスキルを着実に上げていくことができます。また、TOEFL®やTOEIC®などのテスト対策も充実しています。豊富な練習問題に取り組めることはもちろん、自主学習の方法やスコアアップのコツも丁寧に教えてもらえるので、大学に入ってから初めてこれらのテストに挑戦する人でも万全の対策ができると思います。



■ TOEFL®への取り組み

留学に必要な英語力習得を目的に、TOEFL®試験に対して授業のほか以下のよう支援制度を実施しています。

この結果、TOEFL iBT®の平均点(1年次)は64点、2人に1人が「アカデミック留学・インターンシップ・プログラム」に必要な英語力を習得しています。

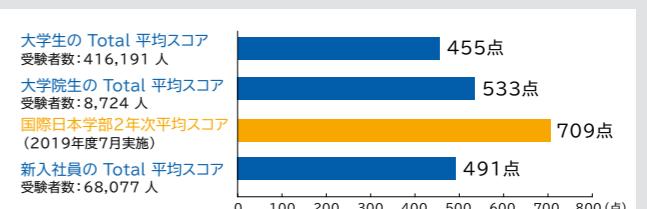
TOEFL®試験に関するガイダンスの実施

TOEFL iBT®試験の受験料を補助(上限あり)

■ TOEIC® L&Rへの取り組み

2年次の必修科目としてTOEIC® Preparationを設置し、週1回受講します。授業の中では試験対策にとどまらず、将来のビジネスや国際社会で活躍できるよう会話やライティングなども取り入れています。また、3・4年次を対象にTOEIC® L&Rの受験料補助制度も導入しています。

■ 2019年度 TOEIC® L&R 団体特別受験制度 (IPテスト) 受験者数と平均スコア一覧



出典: 一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2020」の「II-4. 所属学校別受験者数と平均スコア」および「IV-4. 社歴別受験者数と平均スコア」より
TOEIC®はエデュケーションナル・テスティング・サービス(ETS)の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けたその承認を得たものではありません。

総合的な教育プログラム

外国語科目
総合教育科目 第二外国語

社会人文科学、ICTなど幅広く学べる総合教育科目、国際日本学講座、第二外国語などがきめ細かく用意されています。

総合教育科目

国際日本学部の総合教育科目には、国際社会における日本を考える国際交流や海外での日本研究をテーマとした自発的学習科目である「国際日本学実践科目」、コンテンツ作成や情報発信の基礎を学ぶ「メディアリテラシー」などユニークな科目が設置されています。さらに、専門科目履修の基礎となる社会人文科学、必須科目である「国際日本学講座」「日本語表現」「ICTベーシックI」、スポーツ・身体運動文化などを学ぶ科目も設置されています。

〈科目一覧〉

国際日本学講座	日本史A・B
日本語表現（文章表現）	アジア史A・B
日本語表現（口頭表現）	地理学A・B
学術研究・キャリア開発入門	統計学A・B
社会学A・B	人類学A・B
政治学A・B	スポーツ・身体運動文化A～E
経済学A・B	メディアリテラシーA・B
経営学A・B	国際日本学実践科目A～E
西洋史A・B	教養演習A・B

国際日本学特別演習A・B	ICTベーシックII
国際日本学部特別講座A・B	ICT統計解析I・II
社会連携科目A～H	ICTデータベースI・II
国内インターンシップ	ICTメディア編集I・II
海外インターンシップ	ICTアプリ開発I・II
海外ボランティア実習	ICTコンテンツデザインI・II
全学共通総合講座	ICT総合実践I・II
ICTエレメンタリー	日本国憲法
	ICTベーシックI

国際日本学講座

この科目は国際日本学に関する基本認識を養う導入科目で、異なる教員が人文・社会科学の両分野から国際日本学の課題と方法を提示するものです。2020年は6人の教員が担当し、「鎖国時代の国際交流と国際日本人」「国際日本学的視点からみた日本の『武』」「日本語とはどのような言語か」「国際日本学とグローバル・パラドクス」「日本が得意とするものづくりは何か」「グローバリゼーションと東アジア共同体」といった今日の日本や世界を取り巻く諸問題を取り上げました。また、高校と大学の学びの架け橋としても位置付け、30名程度のクラスで受講し、ディベートやグループ発表、レポート作成などを通じて、大学で必要な「主体的に学ぶ姿勢」を育みます。

外国語科目
第二外国語

国際日本学部では日本語と英語以外の言語は必修科目になっていませんが、現代の世界の物事が英語だけで理解できると考えるのは大きな間違いです。世界中のすべての人にとって、言語は文化の最大の表現であり、信頼の基盤をなすものですから、本当に世界とつながるために言語を学ぶことが必須です。世界が広がり、ものの見え方も変わってきます。大学院に進学したり国際機関で働いたりする場合には、複数の外国語が要件になることが多いので積極的に取り組んでください。本学部では、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語のクラスを開講しています。さらに、これらの言語の会話クラスなどに加え、イタリア語、アラビア語などの言語も学部間共通外国語科目として履修できます。

〈科目一覧〉

ドイツ語（初級）A・B	フランス語（初級）A・B
ドイツ語（中級）A～D	フランス語（中級）A～D
中国語（初級）A・B	スペイン語（初級）A・B
中国語（中級）A～D	スペイン語（中級）A～D
韓国語（初級）A・B	
韓国語（中級）A～D	

少人数で深く学ぶ演習科目

演習（3・4年）

学生が自分の研究テーマを設定し、討論・研究を行う授業です。研究の過程において資料収集や実験をして、研究成果をまとめて発表したり、発表内容について議論をしたりします。社会的なテーマについて学外に開かれたイベントを企画実施する演習もあります。大学での主体的な学びの中心となる授業です。なお、演習の選抜試験は2年次の秋学期に行われます。

演習テーマ一覧

担当者	演習テーマ	担当者	演習テーマ
Vassiliouk, Svetlana	Contemporary International Relations in Northeast Asia with the focus on Japanese Foreign Policy	旦 敬介	ラテンアメリカ研究
鶴戸 聰	人文知と「近代」	張 競	比較文学・比較文化特別研究
吳 在烜	日本企業の研究	長尾 進	スポーツ・武道と「国際」
大須賀 直子	翻訳を通して考える言語と文化	萩原 健	“Performances” in Daily Life and Art Scenes
大矢 政徳	コーパス言語学	廣森 友人	言語学習の心理学 (Language Learning Psychology)
小笠原 泰	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える	藤本 由香里	サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会
尾関 直子	第二言語習得と言語教育	眞嶋 亜有	「日本とは何か」の多角的考察：日常生活からみる比較文化論
岸 磨貴子	教育工学／学習環境デザイン	溝辺 泰雄	地域研究 (Area Studies)：食と旅から世界を知る
金 ゼンマ	グローバリゼーションとアジア太平洋の政治経済	美濃部 仁	哲学
Quek, Mary	Problem based learning projects in the hospitality and travel industries.	宮本 大人	メディアと大衆文化／サブカルチャー
小谷 瑛輔	日本の近現代文学／文化	森川 嘉一郎	マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市
小林 明	国際教育交流の理解と実践	山脇 啓造	多文化共生のまちづくり
小森 和子	第二言語としての日本語の語彙習得	横田 雅弘	ダイバーシティ推進のまちづくり
酒井 信	メディア文化論、ジャーナリズム研究、情報社会論	渡 浩一	ニッポンの歴史と文化
佐藤 郁	観光地のマネジメント／インバウンド観光	Ward, Ryan M.	「死」の日本宗教史
鈴木 賢志	北欧国家の社会システムと 社会心理－日本との比較から学ぶこと		
瀬川 裕司	高度な批評能力を身につける		
田中 絵麻	コンテンツ産業論		
田中 牧郎	日本語の歴史と現在		

Topics | 岸ゼミ～日本と世界をつなぐ学生たちの取り組み～

岸ゼミでは、多様性をつなぐ教育・多様性がつながる学習環境デザインを研究テーマとし、「教育工学（Educational Technology）」を土台とした学生主体のプロジェクト型の実践および研究を行っています。そのプロジェクトのひとつに、日本とトルコに避難するシリア難民の高校生たちを情報通信技術（ICT）でつなぎ、ともに学び合う異文化間協働プロジェクトがあります。このプロジェクトは、ゼミの海外フィールドワークで訪問したトルコの孤児院で、シリア難民生徒の「日本に友達ができたら嬉しい」という声を聞いたことから始まりました。ゼミ生は、日本の高等学校を訪問し、日本とシリアの高校生をテレビ会議でつなぎ、難民となった小さな子どもたちへの支援について話し合い、活動を企画し、実施しました。ともに活動を生み出すプロセスで、両者はそれぞれに関心をもち、理解を深め、関係性を築くことになりました。岸ゼミでは、多様性を“つなげる”ための教育工学の知見を活用し、発展させながら、それを研究していきます。



海外留学プログラム

年間約200人の学生が在学中に海外留学をする国際日本学部。学部独自の海外留学プログラムをご紹介します。



長期留学プログラム



1・2年次に集中的に英語を学習し、留学に十分な英語力を身につけた学生は、2年次の秋学期以降にアカデミック留学プログラムやアカデミック・インターンシッププログラムに参加するチャンスがあります。留学先で修得した単位を国際日本学部の単位として認定することができるので、各種条件を満たせば、留学をしても4年間で卒業が可能です。

アカデミック留学プログラム

学部が独自で協定を結んでいる学部間協定校への留学プログラムです。現在、アメリカ合衆国・イギリス・スウェーデンの17大学・カレッジと協定を締結しています。現地の大学生と一緒に正規の講義を受けられ、また、海外大学やカレッジのキャンパスライフを経験することができます。

アカデミック・インターンシッププログラム

学部間協定校で授業を受けた後、現地でインターンシップに参加することができます。授業で学んだことを業務実習の現場で実践することができる、国際日本学部独自の人気プログラムです。プログラムによっては、インターンシップ中も適宜講義などが行われます。

短期留学プログラム



短期間の留学を希望する場合は、長期休暇を利用して語学留学プログラムや海外ボランティアプログラムへ参加することができます。どちらのプログラムも約3週間～4週間で、プログラムを修了すると単位が認定されます。なお、このプログラムは1年次の学生も参加が可能です。

夏期語学留学

学部間協定校にて、約4週間、集中的に英語を学ぶプログラムです。英語力によりクラス分けがされ、自分に合ったレベルで学習することができます。世界各国から集まる留学生とともに、英語でのコミュニケーション能力向上を図ります。

海外ボランティア

約3週間、同世代の現地学生とともにボランティアに参加ができるプログラムです。プログラムを通じて、ボランティアやSDGsのこと、そして、異文化への理解と適応力を養成することを目的としています。

スケジュール (2022年に長期留学プログラムで留学する学生の場合)

2021年10月下旬	募集開始
2021年11月中旬	申し込みの締切り
2021年11月中旬～12月中旬	学部内での選考
2022年2月中旬	派遣先へ推薦 (インターンシップ留学以外)
2022年2月～3月	インターンシップ先担当者による インターンシップ留学面接選考

※スケジュールは変更となる場合があります。

2022年3月～4月	派遣先大学へ出願 留学先から受入許可
2022年4月	国際日本学部外国留学奨励助成金の申請
2022年7月	選抜により派遣学生に助成金支給
2022年8月～10月	留学先に出発
2022年12月末～翌年6月末	帰国
2023年10月	帰国報告会

アカデミック留学プログラム協定校

アメリカ合衆国 United States of America

オレゴン大学
University of Oregon

ビュートカレッジ
Butte College

ニューヨーク州立大学ニューパルツ校
The State University of New York at New Paltz(SUNY)

フットヒルカレッジ
Foothill College

エドモンズカレッジ
Edmonds College

オローニカレッジ
Ohlone College

エベレットコミュニティカレッジ
Everett Community College

ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ
Kapi'olani Community College

グリーンリバーカレッジ
Green River College

コントラコスタカレッジ
Contra Costa College

ピアスカレッジ
Pierce College

ディアブローバレー・カレッジ
Diablo Valley College

ショアラインコミュニティカレッジ
Shoreline Community College

ロスメダノスカレッジ
Los Medanos College



オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ

イギリス United Kingdom

オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ
Hertford College, University of Oxford

スウェーデン Sweden

ルンド大学
Lund University

セーデルトーン大学
Södertörn University

アカデミック留学プログラム体験記 | ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ

私は2年次の夏より10ヶ月間、このプログラムに参加しました。ハワイは観光客が多いためリゾート地としての面が強く、観光業が主要産業として知られています。カピオラニコミュニティカレッジの授業はハワイ諸島の環境問題やハワイアンの定義など多岐にわたり、非常に興味深かったです。ハワイは1年中暖かく人々はとても優しいイメージだと思いますが、実際は観光地としての面だけではなく、本土との歴史問題やホームレスの問題など、華やかな裏に知られていない現状があることを学びました。ハワイは小さい島であるため、人とつながっていく中でまた新たなつながりが見えてくる面白い島です。私は現地でさまざまな人と、学校生活だけではなくサーフィンを通して交流を深め、多くを学ぶことができました。

留学期間：2018年8月～2019年5月

4年 藤田 慧 (神奈川県立新城高等学校卒業)



アカデミック留学プログラム体験記 | ルンド大学

ルンド大学はヨーロッパの可愛らしい街並みの中にある、長い歴史をもつ大学です。留学生が多く、クラスメイトや同じ寮で過ごした人は、みな年齢や国籍、専攻がばらばらで、多様な考え方の中で学校生活を送りました。私はこのような環境で、ジャーナリズムと北欧モデルの福祉や教育を学び、知識だけでなく国際的な視点を養うことができました。また、北欧神話を舞台にした劇にも参加しました。ほかの学生の英語についていけずに、もどかしい思いをすることもありましたが、すべてが貴重な経験で、私のこれからの進路に大きく影響を与えました。スウェーデンに行ってよかったと心の底から思います。

留学期間：2018年8月～2019年6月

4年 角田 七海 (明治大学付属中野八王子中学高等学校卒業)



長期留学プログラム アカデミック・インターンシッププログラム協定校

フロリダ州立大学

ウォルト・ディズニー・ワールド提携
アカデミック・インターンシッププログラム（有給）

フロリダ州の州都タラハシーに所在する総合大学、フロリダ州立大学（FSU）で約10日間の導入授業を受けたのち、ウォルト・ディズニー・ワールドにて実際に「キャスト」としてインターンシップを行います。このプログラムに参加するには、学部内選考に加えて、ディズニー担当者による最終面接を通過する必要があります。



アカデミック・インターンシッププログラム留学体験記 | ウォルト・ディズニー・ワールド

私はパーク内のグッズ販売店にてゲストとかかわる仕事をしました。世界中から集まるゲストの方々と話す機会は貴重であり、私自身多様な文化に対する理解を深めることができました。不安の多かった英語力に関しても、ゲストや職場の同僚と多くの交流をする中で自信をつけることができました。ゲストとの会話で印象に残っているのは、私が男の子に日本文化などについて話した時「日本に行きたい！」と嬉しそうに話してくれたことです。このプログラムの魅力は、世界中の人の交流を通して自分の成長を実感できる点だと思います。自分のもっているホスピタリティという魔法で、世界中の人の笑顔にできた経験は最高の思い出になりました。

留学期間：2018年8月～2019年1月

4年 柴田 恒（東京都私立東京高等学校卒業）



短期留学プログラム 夏期語学留学協定校

トロント大学（カナダ）

1827年に創立。カナダの最高学府として世界に知られています。キャンパス内には大規模な語学研修機関があり、世界各国からの留学生が英語を学んでいます。同国の文化・社会の学習を通じて主に英語力の向上を図ります。



語学留学体験記 | トロント大学

夏休みの1ヶ月を利用してトロント大学に留学しました。私はビジネスクラスに入り、たくさんのクラスメイトと交流することができました。授業は、特に英語での発信力が身につき、とても有意義なものでした。ホームステイ先では、多国籍の学生と暮らしました。毎日夕飯時には英語で会話し、その中でもジェスチャーの違いについて話した時は興味深かったです。日本よりも危険な印象をもちがちですが、地元の人は親切で治安は悪くありません。私はこの1ヶ月間を通してトロントという地が好きになりました。また、さまざまなお貴重な経験を経て、文化面と知識面において視野が広がりました。機会があれば、ぜひまた行きたいです。

留学期間：2019年8月

2年 周 澤旭（千葉県私立麗澤中学・高等学校卒業）



短期留学プログラム 海外ボランティア協定校

ブディルフル大学（インドネシア）

ジャカルタ西部に位置し、1979年に創立された私立大学。学生間交流や日本語・英語教師アシスタントなどのボランティア活動を通じて、社会的な課題やSDGsなどに目を向けていきます。そして、現地の学生と一緒に活動を行うことで相互理解を深め、多文化社会への適応力を高めることを目指します。



海外ボランティア体験記 | ブディルフル大学

このプログラムでは、現地の大学に通いながら小中高校や孤児院などをまわって日本の文化を紹介したり、インドネシアの文化を体験したりしました。目に映るものすべてが新鮮で刺激的な体験でしたが、特に刺激的だったのはイスラム教寄宿学校での滞在でした。日本ではあまり馴染みのないイスラム教に、僕ら自身がイスラム教徒として現地の教徒とともに過ごしました。僕たちは全く違う衣食住への理解が深まつたとともに、他宗教への関心が深まりました。また、現地で出会う人々との交流はとても深く、別れの際はみんなで泣いてしまうほどでした。このような交流や体験を通して、絶対に忘れることのない良い思い出になったと同時に、これまでの世界観を大きく変えるきっかけとなりました。

留学期間：2019年8月

2年 松田 大地（鳥取県立米子西高等学校卒業）



CIEE海外ボランティアプログラム（約800種類）

国際日本学部では、一般社団法人CIEE国際教育交換協議会が実施する海外ボランティアプログラムに参加した学生にも、所定の条件を満たせば「海外ボランティア実習」（2単位）を認定しています。プログラムには、オーストラリアなどでの「環境保護」や、インドネシアでの「日本語クラスサポート」、カナダでの「動物NPO活動支援ボランティア」、アメリカでの「教師アシスタント」など、年間を通じて世界の約30カ国でのボランティアプログラムがあります。

留学Q & A

Q 海外留学のためのカリキュラムはありますか？

A.国際日本学部では、留学先での学びが円滑に進むよう、英語教育に力を入れています。1年次では週6コマ、2年次では週5コマ、必修授業があり、多数のネイティブ教員が担当する20名程度の少人数クラスで学びます（英語教育についてはP.15～18参照）。また、「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「国際教育交流論」といった留学関連の科目も設置しています。

Q 毎年、何名程度の学生が留学しますか？
留学希望者は全員、参加できますか？

A.2019年度、明治大学全学の協定留学プログラムおよび学部間の協定留学プログラムに参加した国際日本学部の学生は約200名（短期プログラム含む）です。留学希望者は、学内選考（アカデミック・インターンシッププログラムの場合は、各インターンシップ先との面接もあり）を受け、合格した留学先のプログラムへ参加することとなります。毎年希望者の約80%が留学しています。

Q 海外留学関連費用はどのようなものがありますか？
また留学費用のサポートはありますか？

A.留学中の明治大学学費に加えて、留学に関連してかかる費用は、派遣先大学の授業料および生活費があります。そのほかにビザ申請料、航空運賃、海外旅行保険代金などが必要となり、為替レートの変動、現地での生活スタイルにより大きく変動しますので、事前にきちんと計画を立ててください。また、留学費用のサポートに関しては、国際日本学部アカデミック留学・インターンシッププログラム参加者に対し、経済的負担を軽減する目的で「国際日本学部外国留学奨励助成金」という選抜により助成金を支給する制度があり、助成金申請者のうち約85%の学生が支援を受けています。

Q 留学先での安全管理はどうなっていますか？

A.海外留学準備を目的とした授業「海外留学入門」の履修、事前研修、各種資料の配布などで学生が現地でトラブルに巻き込まれないための予防策、また万が一巻き込まれた場合の対処法などについて説明をしています。さらに、海外での学生生活の不測の事態に備え、学部独自に危機管理の専門会社と契約し、学内各部署や保険会社、旅行会社などとも連携できるように、安全管理策を講じています。

さらに詳しく知る

学部間協定校の情報や留学費用、各プログラムの募集要項などはホームページをご覧ください。
<https://www.meiji.ac.jp/nippon/study-abroad5.html>



12

多文化共生キャンパスの形成

世界から集う学生（国際交流）

多文化共生キャンパスを実現するために、留学生の受入れを積極的に推進しています。



国際日本学部は、明治大学の中では比較的小さい学部ですが、多様な文化的背景をもった学生たちがともに学ぶ多文化共生キャンパスを実現するために、アジアを中心に世界中からの留学生受け入れを積極的に推進しています。現在、学生の約18%が海外からの外国人留学生ですが、2020年度から留学生入試のⅠ型とⅡ型の併願を可能にするなど、門戸を広げることで、外国人留学生の比率を少しずつ上げ、3割に到達させることを目指しています。学部の授業の中には「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「多文化共生論」、「移民政策論」など、国際交流に関連した科目がいくつも置かれ、国際交流の理論と実践について、日本人学生と

外国人留学生ともに学ぶことができます。また、「国際日本学実践科目」というユニークな科目が配置され、国際交流をテーマにした講演会やフォーラムなどを学生自身が企画し、運営することもあります。授業外でも留学生対象の就職活動行事の実施や、留学生が日本での大学生活をスムーズに送るための日本人学生サポート制度など、留学生に対するサポート体制を充実させています。

留学生在籍数



約250人

※2021年3月時点
※交換留学生含む

英語で行われている講義の数



約110講義

※年度・学期により異なる



Topics | イングリッシュ・トラック

イングリッシュ・トラックは、国際日本学部で提供している100余りの英語による授業を履修し、4年間で卒業できる英語学位プログラムです。本プログラムは、2011年度に外国人留学生を対象にスタートしましたが、国籍を問わず、より多様な背景をもったみなさんを受け入れられるように改組し、2017年度からは日本国籍をもつ学生もこのプログラムで学んでいます。

世界から集まつたイングリッシュ・トラックの学生は、英語を共通言語として相互理解を深めています。また、日本語学位プログラムの学生も英語で行われる授業で一定の単位数を修得する必要があるため、授業内でプログラムの垣根を越えた交流も積極的に行われています。



学生主体の国際交流



学生団体「国際交流学生委員会（GJSSC）を中心に、さまざまな国際交流イベントや活動を実施しています。正規留学生・交換留学生ともに多く在籍する国際日本学部ならではの雰囲気を楽しむことができます。

（活動例）

- ・留学生歓迎イベント
- ・かるた、書き初め体験
- ・スポーツ大会
- ・観光地巡りイベント
- ・忘年会
- ・留学生サポートボランティア

学生コメント | 国際交流学生委員会（GJSSC）

国際交流学生委員会は、日本人学生と留学生の交流を促進することを主な目的として活動しています。国際日本学部には多様な文化背景をもった学生がいるため、彼らが授業以外でも交流できる機会を増やすことで、多文化共生キャンパスの実現を目指しています。また、留学生が日本での大学生活をスムーズに送ることができるよう、センターとしても活動しています。委員会は、広報や会計、書記などの役員が中心となって活動しており、私はイベント企画担当の一員として、歓迎会や日本文化体験イベントなど

の企画・運営をしています。イベントの企画は、アイデアは浮かんでも実現が難しかったり、参加者に楽しんでもらうためにはどうすればいいか試行錯誤したり、大変なこともあります。ですが、それ以上に参加者の「楽しかった」という言葉にやりがいを感じます。委員会での経験を通して、「人を喜ばせるために何ができるか」を考える力が身につきました。自分たちで考え、行動する力は、今後の学生生活や将来にも役立つと考えています。



2年 太田 亜美
愛媛県立
松山南高等学校卒業

国際交流・国際日本学関連科目

海外留学入門

この授業は、アカデミック 留学・インターンシッププログラム（P.21-24）や大学の協定留学など多様な海外活動を目指している学生の支援を目的にしています。留学準備を時系列的に、I.留学に関する理解、II.留学先選定から申請手続き、III.渡航準備から異文化適応の3段階に分けて学びます。留学期間をより効果的に過ごし、初期の目的を効率よく達成できるようにカルチャーショックの克服やリスク回避など、渡航先での生活適応に必要な情報やスキルを習得します。



国際日本学実践科目

国際日本学実践科目では、国際交流を推進するための行事の企画実施や、国際日本学に関する調査研究、日本文化や社会に関するフィールドワークなどに日本人と留学生が取り組みます。



（科目例）（年度によって異なる場合があります）

- ・「茶道」の歴史や思想を学び、茶会を体験する
- ・京都や鎌倉をまわりながら宗教と生活のかかわりについて学ぶ
- ・スピーチコンテストや国際交流フォーラムを企画・実施する



入学前はひとつだった目標や興味が、
多様な学びと出会い、豊かに広がってゆく。

鈴木 賢志学部長（以下、鈴木） 国際日本学部の特徴のひとつは、既存の学問分野の垣根を越えて、「世界と日本をつなぐ」という目的のもと、さまざまな領域の科目が集まっていることだと感じています。みなさんは、どのような理由で、この学部を志望されましたか？また、入学後、どのような点に魅力を感じていますか？

澤田 彰良さん（以下、澤田） 高校時代から、漠然と「国際人」に憧れながらも、その実像はつかめずにいました。ただ英語が話せるとか、海外事情に詳しいということではなく、きっと自己や自分のことも知ったうえで、双向的な視点をもつてることが大切なだろう…と考えを巡らせる中で出会ったのが、この学部です。多様な学びが学際的に集う環境が、自分にぴったりだと感じました。また、自分自身が性的マイノリティということもあり、入学前は、あまり自分を出せない経験がありました。ですが、入学後は、違いやパーソナリティに対して寛容な人たちと出会い、自分を受け入れてくれる場所ができた思いです。

根本 遥さん（以下、根本） この学部を志望した理由は、世界と日本の両方を学べること。国際のみに特化せず、日本についても知見を深められることは、観光業界を目指している私の将来に役立つと思いました。また、留学も目標にしていましたので、行きたい留学先があり、留学しても4年間で卒業できるカリキュラムになっていることも、志望理由でした。実際に入学して感じたのは、学びの視点の多様さです。文化や政治経済、ボップカルチャーなど、自分の興味に応じて、さまざまな切り口から世界と日本の学びを深められることに魅力を感じています。

シ シアンさん（以下、シ） 日本語教師になりたい、日本語教育に携わりたい、という夢をもっていた私にとって、日本語研究領域のある国際日本学部は、魅力的な存在でした。特に、「日本語教育人材育成プログラム」があるということを知ってからは、絶対に入学したいという思いが強くなつたことを覚えています。



実際に入学してみると、日本語だけではなく日本の政治や文学、文化など、学べる領域が多彩。日本そのものについて教養を広げられることに、メリットを感じるようになりました。

世界を学ぶうえで欠かせない語学力。
苦労の先に、確かな成果が待っている。

鈴木 望んでいた環境で学びを進める一方で、苦労したこと、大変だったことはありませんでしたか？

シ 入学当初は、日本人の学生と友達になるかどうかが不安でしたし、自分の日本語が間違っていないかということも心配で、とても大変でした。今は、頑張って日本人と友達になることができました。



澤田 私は英語が得意ではなかった分、徹底的に英語力を鍛えるカリキュラムには苦労した覚えがあります。もちろん、そのおかげで苦手意識を解消することができました。

根本 私も1、2年の頃は、同級生のみんなのレベルが高く、ついていくのが大変だと感じたことがあります。必修の授業に加えてTOEFL®の授業も履修していたこともあり、英語漬けの日々。確かに苦労はしましたが、目標にしていた海外留学や、英語で開講されている講義で、英語力の向上を実感できたので、頑張った成果はしっかりと自分の糧になり大変よかったです。

鈴木 英語漬けの毎日は、確かに大変かもしれません。ですが、入学後も継続して英語力が向上することが期待されるため、社会に出るとき、確実にみなさんの強みとなるでしょう。

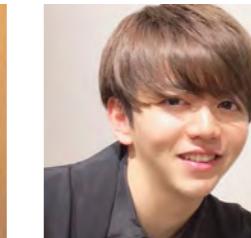
澤田 また、学際的に多彩な領域の学びが揃っていることは魅力である一方、何かに絞らなければ、広く浅く知っているだけの人になつてしまふような懸念も。ある段階に至つたら、先生を頼りながら専門性を深めていく方向へ軸足をシフトしていく必要性を感じています。それが、他学部の科目も履修することができる制度によりさらに高度な専門領域へ学びを深められる、明治大学ならではの特徴をいかすことにもなると思います。



国際日本学部長
鈴木 賢志



埼玉県私立昌平高等学校卒業
4年 根本 遥



兵庫県立洲本高等学校卒業
3年 澤田 彰良



中国
蘇州市第三高等学校卒業
2年 シシアン

鈴木 自分の興味や専門性を探し出すことは、簡単なことではないですね。この学部では、入学後、いかに幅広い知識を受け入れられるかが大変になつています。学生のみなさんには、多彩な領域に触れながら自らの目標や進路の可能性を探り、そこからさらに視野を広げていただきたいです。

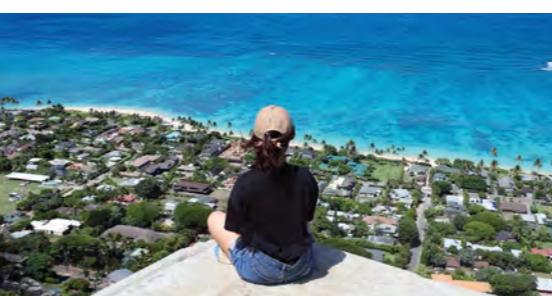
価値観が変わる。新たな気づきがある。
一人ひとりの興味・関心が、確かな成長に。

鈴木 これまでにキャンパスで学んできた経験の中で、どんなことが、特に印象に残っていますか？

澤田 自分の価値観の変化、多様さを理解したいと思えるようになったことが、大きな成長であり、自らにとって、印象的なことだったと思います。たとえば、キャンパスのラウンジで、留学生をはじめ、一人ひとり異なるバックグラウンドをもつ友達が集い、話をしている中で、「その考え方共感はできないけれど、尊重したい」という思いが生まれました。「わからない、理解できないからかわらない」では済まされない環境に身を置き続け、どうにか話を進めていくことに面白さを感じています。自分の軸をしっかりともつてながら、自分の意見を主張し、相手の意見も尊重できる。そんな人たちと出会えたことも、この学部ならではの経験だと思います。

鈴木 この学部には、世界各国から多様な文化背景をもった学生が集っているため、違いを尊重しながら、相手にどう意見を伝えるかを学ぶ機会が多いです。違いを違いとして理解し、それを尊重していくことが、ゆくゆくは世界と日本をつなぐことになるのです。

根本 私にとって印象的だったエピソードは、ハワイへの留学です。観光学に興味があった私にとって、現地の大学や異文化の中での生活を通じて学べたことも多々あるのですが、一番印象に残っているのは、外から日本を見たときに、改めて気づいたことの多さです。四季の変化があること、旬の食べ物があること。恋しくなつて見つめた日本には、ありふれた日々の中では気づくことのできなかつた魅力があふれていました。その経験をきっかけに、日本がもっと好きになりました。そんな母国の大切さを、現地の人々に伝えていくうちに、コミュニケーションする機会も増え、さまざまなことに対して積極的に挑戦する行動力も身についたと思います。



シ 私が覚えているのは、「国際日本学講座」という授業です。自分が学びたいことを発見する、という発想が印象的でした。学生はグループに分かれて、自分たちが気になる分野の先生方にインタビューをすることから始まります。自分が聞いたこと、気づいたことをもとに考察、研究し、周りの人にシェアするということの大切さを学ぶことができました。

多彩な学びで、自分の中に礎を築く。
広がり続ける可能性の、原点として。

鈴木 この学部の卒業生は、学部の目的でもある「世界と日本をつなぐ」ことを実現している方が多いように思います。商社や観光業界、外務省など、活躍の場はさまざまです。みなさんは、卒業後、将来に向けて、学んだことをどのようにいかしていきたいと考えていますか？

根本 私は春から旅行会社で働いていますので、この学部で学んだことを、多様な人々とのコミュニケーション、日本の魅力発信に發揮し、旅行という分野で世界と日本をつなぐ人材になりたいと思います。留学を通じて、私自身の価値観や視野も大きく広がりました。同じような経験を、より多くの人に届けたいという思いもあります。

澤田 現在は海外の大学院進学を視野に入っています。研究したいと考えているテーマは、インクルーシブ教育。教育の現場における、さまざまな価値観、多様性を受け入れるダイバーシティ社会への取り組みについて勉強したいと考えています。さらに、その先には、教員や教育分野に携わっていく将来像もイメージしています。日本の文化、価値観の中では実現が難しそうなことが、多文化共生の意識が進んでいるといわれる国ではどうなっているのか、ということを現地で経験する貴重な機会にもなると考え、海外の大学院に設定しました。

シ 私も澤田さん同様に、大学院への進学を考えています。現在構想中の研究テーマは、「在日外国人の子どもたちの日本語の習得について」。日本語と中国語の比較を取り入れて、研究していきたいと考えています。そして、大学院を卒業した後は、母国中国へ帰って、日本語の先生になりたい。自分が日本語を勉強した経験をいかして、新しい教育方法を発見したいと考えています。日本語がどれだけ上達しても、学び続ける学習者であるということを忘れず、教え子たちと一緒に新しいことを発見し、ともに考えて学び続ける教育者になりたいと思います。

鈴木 みなさんが、それぞれの目標に向かって取り組んでいらっしゃることを嬉しく思います。学際的な学びを提供しているからこそ、専門性が高い知識のみならず、幅広い知識を身につけることができる。そして、多彩な領域の学びを通じて得たことが、やがて社会に出たときや、高度な専門分野に進んだときに、尊く輝く個性になる。そう信じて、みなさんのますますの成長と活躍に期待しています。

キャリア形成

明治大学では、「就職キャリア支援センター」において、学生のみなさんに能力や特性をいかすことのできる進路や職業を選択してもらうための支援業務を行っています。具体的には、個人・グループでの就職・進路相談、就職筆記試験や面接対策講座、インターンシップ関連支援、各種セミナーなどを行っています。また、国際日本学部でも、学部独自のキャリア支援として、留学生やイングリッシュ・トラック学生を対象としたイベントを開催したり、インターンシップ参加に対して単位を付与するなど、学生のキャリア形成を積極的にサポートしています。

主な支援行事

1~2年次	キャリアデザインガイダンス インターンシップガイダンス・海外インターンシップ説明会 価値観発見セミナー 課題解決プロジェクト 企業見学会 ゼミ・サークルなどでグループ相談会(通年)
4月	インターンシップガイダンス・海外インターンシップ説明会
5月	進路・就職ガイダンス 公務員ガイダンス
6月	自己分析・コンピテンシー講座 インターンシップ学内企業合同セミナー インターンシップ選考対策講座
10月~	自己PRチェック・コンピテンシー講座 エントリーシート対策講座 業界・企業研究セミナー OB・OG懇談会
11月~	B to B企業セミナー 複数大学グループディスカッション実践講座 SPI対策講座WEBテスト説明会 就職活動体験報告会
12月~	グローバルキャリアデザインセミナー 女子学生向けライフキャリアセミナー 企業見学会 ベンチャー企業働き方セミナー 四大学合同 OB・OG仕事セミナー
1月~	ビジネスマナー講座 就活直前準備講座 学内合同業界研究会
2月~	出陣式 模擬面接会
3月~	学内合同企業説明会 内定学生による個別相談会
6月~	納得就職ガイダンス・リスタートセミナー 学内合同企業説明会
11月~	各種学内採用選考会

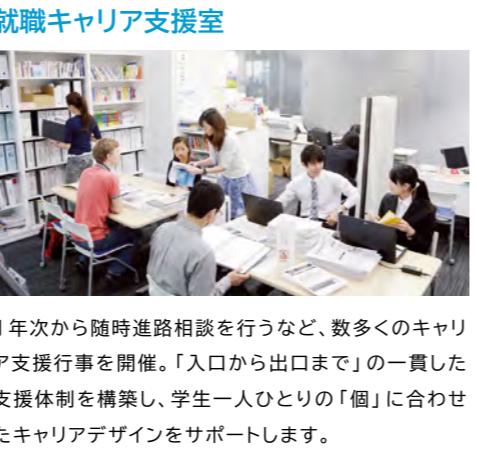
Topics | 資格取得

専門的な資格を取得し、将来の進路にいかしたいと考えているみなさんのために、本学では学部の授業に加え、所定の単位を修得することにより、教員免許状・学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭の5つの資格を取得することができます。

本学部で取得可能な教員免許
●中学校および高等学校教諭一種免許状「英語」
●中学校教諭一種免許状「社会」
●高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」

Topics | 大学院国際日本学研究科

国際日本学部で得た知識をより高度に発展させ、国際社会で広く活躍できる人材の養成を目的として、大学院国際日本学研究科を設置しています。本研究科には、ポップカルチャー研究、日本企業・社会システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究といった幅広い研究領域があり、それらの有機的関連の中で研究のさらなる深化を図るとともに、他研究領域とも積極的に交流し、時代に即応した人材を育成します。



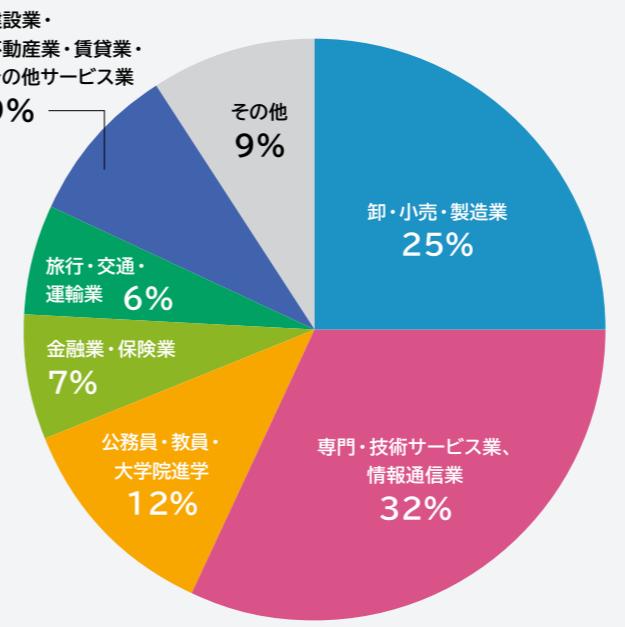
※スケジュールは変更となる場合があります。

就職実績

国際日本学部は、日本の文化や社会に対する深い理解と国際的な感覚をもち、21世紀のグローバル社会で活躍できる優れた人材を育成することを目指しています。また、国際化する日本企業ではグローバルマインドをもつ人材がますます求められており、国際日本学部への関心も高まっています。

「卒業生メッセージ」からは、先輩たちが国際日本学部での多彩な授業、留学体験、演習(ゼミ)などを通して学んだことを存分にいかし、進路を決定していることがわかります。商社、銀行、マスコミ、製造業、公務員など、将来の活躍の場は多岐にわたります。

2020年度 国際日本学部卒業生 業種別就職状況



卸・小売・製造業

- 伊藤忠商事株式会社
- 双日株式会社
- 丸紅株式会社
- 株式会社バンダイ
- パナソニック株式会社
- オリンパス株式会社
- アマゾンジャパン合同会社
- 富士通株式会社
- 株式会社ユニクロ
- ENEOS株式会社

卒業生メッセージ

卸売業

~夢を描こう~



伊藤忠商事株式会社 勤務

伊藤 稔 (2017年卒業)

東京都私立広尾学園高等学校卒業

「日本人として世界を舞台に活躍したい」、そんな夢をもって、伊藤忠商事の門戸を叩きました。一見漠然としたこの夢、背中を押してくれたのが国際日本学部です。日本を軸に世界のさまざまなことを多角的に学べる、将来像がほんやりとしていた私には最適な学び舎でした。米国留学やゼミの北欧研修、模擬国連など、この学部で色々なことを経験したからこそ、将来は商人として世界を股にかけて総合商社で仕事をしたいと志しました。多様な選択肢と無限の可能性を教えてくれる国際日本学部で、夢を描いてください。

運輸業

~自分らしさを伸ばす~



全日本空輸株式会社 勤務

赤尾 玲美 (2017年卒業)

東京都私立國學院高等学校卒業

日本の魅力をいかし、喜びや感動を与えるという想いから入社しました。国籍や年代の違う方と出会う中で日々学びながらフライトをしています。国際日本学部は、幅広い分野から実用的なグローバル感覚や知識を得られることで「日本と世界をつなぐ」力が身につく環境が整っています。留学制度も充実しており、私もイギリス留学で海外から見た日本の魅力を体感し、将来の軸を見つけることができました。海外で活躍したい、価値観や人間性を磨きたい、そんな方の「個性を伸ばす」学部です。

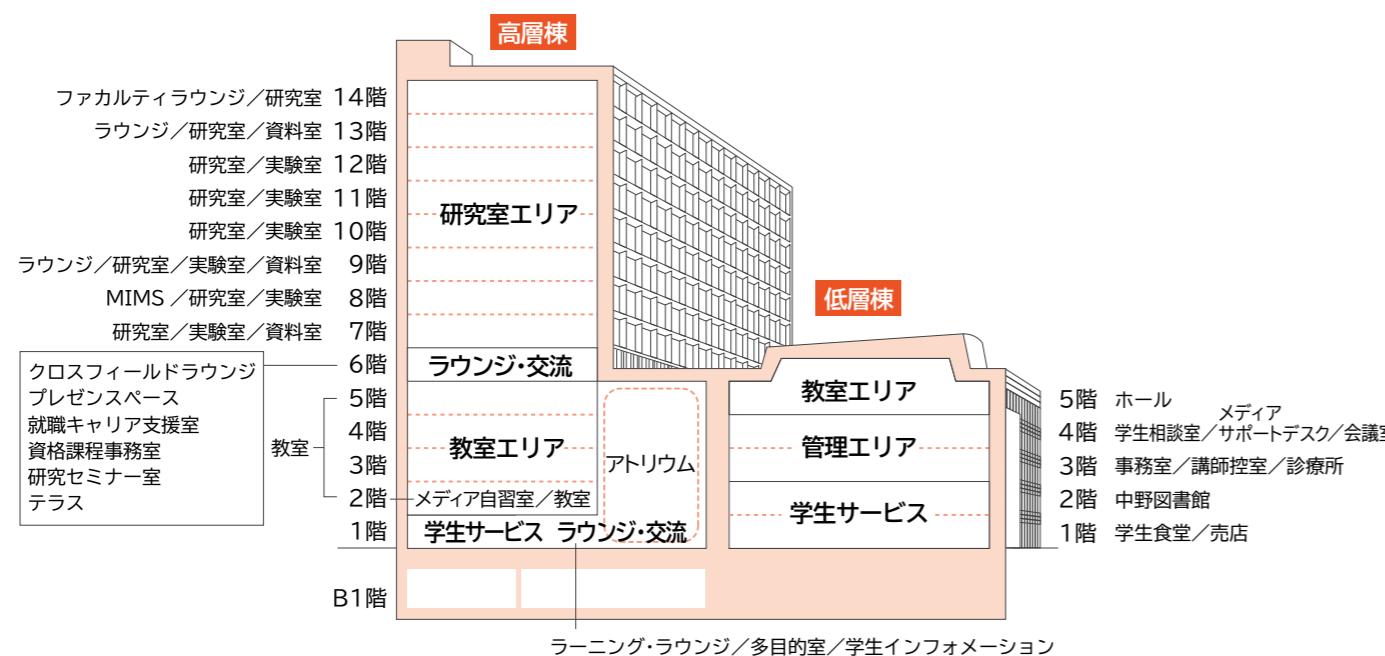
社会をつなぎ、世界に発信する 拠点キャンパス「中野」で学ぶ4年間。

2013年、明治大学第4のキャンパスが誕生しました。場所は、クール・ジャパンを象徴するサブカルチャーの発信地、中野。

あらゆる分野と自由な発想で交流を深めながら、国際化、先端研究、社会連携の拠点となり、

その研究成果を世界に発信していきます。「世界へ『個』を強め、世界をつなぎ、未来へ」。

明治大学が新たな発展を遂げるための、中核となるキャンパスです。



施設紹介 | ラーニング・ラウンジ

明治大学の国際化の拠点である中野キャンパスの1階にある、学生の主体的な学びのスペースです。交流エリア、共創エリア、相談エリア、自習エリアの4つに分かれ、いつも多様な文化背景をもった学生たちで賑わっています。交流エリアでは自由におしゃべりし、共創エリアではグループワークをしたり、相談エリアでは学習のサポートを受けたり、留学相談をしたりすることができます。

*中野キャンパス設置学部等

国際日本学部、総合数理学部(各学部1~4年次) 大学院 先端数理科学インスティテュート(MIMS)



☑ 国際化

文部科学省の「国際化拠点整備事業(グローバル30)」に続き、「スーパーグローバル大学創成支援事業」にも採択された明治大学では、海外の学生が留学しやすい環境を提供するため、英語で学位を取得できるコースの設置や受け入れ体制の整備を行っています。また、留学生と切磋琢磨する環境の中で、国際的に活躍できる人材を育成し、本学学生を数多く海外に送り出すための諸制度も整備。中野キャンパスは、「世界に開かれた大学」を目指し、高等教育で社会のグローバル化をリードしていきます。



☑ 社会連携

自治体や他大学、さらには研究機関、企業との連携および国際連携を推進し、広く社会に貢献していきます。その一環として、中野キャンパスでもさまざまな生涯学習講座を開講しています。また、国際日本学部では特に地域連携に力を入れ、ゼミや国際日本学実践科目などの科目や国際交流学生委員会の活動を通して、中野区のまちづくりに参加しています。

☑ 先端研究

先端数理(現象数理)に加えて、ほかの理系や文系についても、本学を代表する先端研究として育成します。これらが拠点となり、国内外の研究者などとの研究交流を図り、シンポジウム、共同研究プロジェクトなどを推進し、研究成果を外部に発信します。

奨学金制度

明治大学には成績優秀者に給付されるものから、経済的困難を助けるためのものなど、目的に応じてさまざまな奨学金が用意されています。奨学金には大きく分けると2つのタイプがあります。返還の義務がない給費型と卒業後に返還の義務が生じる貸費型です。なお、貸費型の奨学金には無利子のものと有利子のものがあります。また、これらの奨学金のほかにも、民間および地方公共団体の取り扱う奨学金や家計急変時に対応した奨学金があります。奨学金については、春の奨学金案内『ASSIST』および明治大学ホームページに情報を掲載しています。

貸費型(返還義務がない)		
明治大学 給費奨学金	給付額 (年)	・200,000円または300,000円 ・授業料1/2相当額 (未来サポート給費奨学)
	募集人数	約1,440名以内
明治大学 学業奨励給費奨学金		
	給付額 (年)	授業料年額相当額または 授業料年額1/2相当額、授業料年額1/4相当額
	採用人数	学部により異なる
明治大学 校友会奨学金「前へ!」		
	給付額(年)	200,000円
	募集人数	未定(募集要項を確認)
明治大学 連合父母会 一般給付奨学金		
	給付額(年)	250,000円
	募集人数	未定(募集要項を確認)
高等教育の修学支援制度 (給付奨学金)		
	給付額(月)	第I区分 38,300円(自宅通学)、75,800円(自宅外通学) 第II区分 25,600円(自宅通学)、50,600円(自宅外通学) 第III区分 12,800円(自宅通学)、25,300円(自宅外通学)
高等教育の修学支援制度 (授業料等減免)		
	給付額(年)	第I区分は次の金額の満額、 第II区分は次の金額の3分の2、 第III区分は次の金額の3分の1の額 入学金: 200,000円(新1年生のみ) 授業料: 700,000円

*募集人数、採用人数は大学全体での数となります。また、支給額や採用人数は変更となる場合があります。
※詳細は明治大学ホームページ(ホーム > 学生生活 > 学費・奨学金 > 奨学金
<https://www.meiji.ac.jp/campus/shougaku/>)を参照してください。

入試情報

明治大学は、一般選抜入試（学部別入試・全学部統一入試・大学入学共通テスト利用入試）すべてにおいて、Web出願を導入しております。パソコン・スマートフォン・タブレットから出願できます。
※詳細は、必ず、一般選抜要項（明治大学ホームページにて11月上旬公開予定）をご確認ください。※特別入試・推薦入試では、Web出願を行いません。

学部別入学試験

※英語4技能試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	時間割	教科	配点	試験科目	試験場	
学部別3科目方式	130名	1時限	10:00~11:00 (60分)	国語	150点	国語総合（漢文の独立問題は出題しない）	本学キャンパスのみ ※ただし、中野キャンパスは使用しません。	
		2時限	12:00~13:00 (60分)	地理歴史	100点	世界史B、日本史Bから1科目選択		
		3時限	14:20~15:40 (80分)	外国語	200点	英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II）		
英語4技能試験活用方式	100名	1時限	10:00~11:00 (60分)	国語	150点	国語総合（漢文の独立問題は出題しない）	本学キャンパスのみ ※ただし、中野キャンパスは使用しません。	
		2時限	12:00~13:00 (60分)	地理歴史	100点	世界史B、日本史Bから1科目選択		
		3時限	—	—	—	英語4技能試験（資格・検定試験）を出願資格として利用		
2022年		出願期間（消印有効）		入学試験日		合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）	
[1月6日（木）~1月21日（金）]		2月9日（水）		2月16日（水）9:30		3月2日（水）		

全学部統一入学試験

※英語4技能試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	時間割	教科	試験科目	配点	試験場	
3科目方式	10名	1時限	60分	外国語	英語（コミュニケーション英語I、コミュニケーション英語II、コミュニケーション英語III、英語表現I、英語表現II） 配点100点を200点に換算する。なお、外国語は英語を選択してください。（出願時に事前選択）	200点	東京（駿河台・和泉・中野キャンパス） 神奈川（生田キャンパス） 札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 北九州	
		2時限	60分	国語	国語総合（漢文を除く）	100点		
		下記の4教科8科目のうちから1科目を選択し、受験する。2科目を受験した場合には、高得点の科目を利用する。				400点		
英語4技能3科目方式	18名	3時限	60分	地理歴史、 公民、理科	世界史B、日本史B、地理B、政治・経済、 物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）から1科目選択	100点	東京（駿河台・和泉・中野キャンパス） 神奈川（生田キャンパス） 札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 北九州	
		4時限	60分	数学	数学（数学I・数学II・数学A・数学B「数列・ベクトル」）	100点		
		合計（3科目）				400点		
2022年		出願期間（消印有効）		入学試験日		合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）	
[1月6日（木）~1月17日（金）]		2月5日（土）		2月16日（水）9:30		3月2日（水）		

※試験地については、東京・神奈川・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・北九州の8会場の中から1つを受験生が出願時に選択します。

ただし、東京（本学キャンパス）では駿河台キャンパス・和泉キャンパス・中野キャンパスの選択はできません。また、志願状況により、神奈川（本学キャンパス）を選択しても東京（本学キャンパス）を指定することがあります。

大学入学共通テスト利用入学試験

方式	募集人員	利用する「大学入学共通テスト」の教科・科目・配点等						
		教科	科目	配点	備考			
3科目方式	20名	国語	『国語』	200点	記述式問題の段階表示は合否判定に利用しない。			
		外国語	『英語』	250点	リーディング100点、リスニング100点の合計点200点を250点に換算する。			
		下記の4教科17科目のうちから1科目を選択。		（注）2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。 〔地理歴史〕〔公民〕および〔理科〕については、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。				
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		数学	『数学I・数学A』、『数学II・数学B』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。 （注）「理科①」を利用する場合は、「理科①」のうちから2科目を選択し、この2科目を以て1科目とみなす。			
		合計（3科目）		650点				
		国語	『国語』	200点	記述式問題の段階表示は合否判定に利用しない。			
		外国語	『英語』	250点	リーディング100点、リスニング100点の合計点200点を250点に換算する。			
5科目方式	10名	数学	『数学I・数学A』	200点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		下記の4教科16科目のうちから2科目を選択。		（注）3科目以上を受験した場合には、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。同一教科内について、2教科の使用も可。 〔地理歴史〕〔公民〕および〔理科〕については、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定とする。				
		地理歴史	「世界史B」、「日本史B」、「地理B」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		公民	「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理・政治・経済」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		数学	『数学II・数学B』	400点 (200点×2)	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			
		理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」	100点	大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。 （注）「理科①」を利用する場合は、「理科①」のうちから2科目を選択し、この2科目を以て1科目とみなす。			
		合計（5科目）		1050点				
2022年		出願期間（消印有効）		入学試験日（大学入学共通テスト）		合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）	
[1月6日（木）~1月14日（金）]		[1月15日（土）~1月16日（日）] 〔令和4年（2022年）大学入学共通テスト〕を参照してください		2月16日（水）9:30		3月2日（水）		

※個別学力検査等は課しません。（注）「理科①」…「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」を指します。

特別入試

詳細については、各募集要項をご確認ください。

試験種類	募集人員	出願期間	入学試験日	試験科目
外国人留学生入学試験（I型）	40名	2021年9月15日（水）~9月24日（金）	第一次選考	—
			第二次選考	2022年1月8日（土）
外国人留学生入学試験（II型）	6名	2021年10月14日（木）~10月21日（木）	—	書類選考
			2021年11月27日（土）	口頭試問
スポーツ特別入学試験*	4月入学 9月入学	2021年10月14日（木）~10月27日（水） 2022年4月1日（金）~4月14日（木）	—	書類選考
			—	書類選考
自己推薦特別入学試験	6名	2021年9月21日（火）~2021年9月24日（金）	第一次選考	—
			第二次選考	2021年11月27日（土）

*スポーツ特別入学試験は、事前に「事前エントリー」が必要になります。

学部別入学試験・英語4技能試験の活用について

国際日本学部の学部別入学試験（2022年2月9日実施）受験希望者で、英語資格・検定試験において基準を満たし、出願時に所定の証明書類を提出できる者が対象です。

（注）スコアの証明書類は2020年1月1日以降に受験（実用英語技能検定については証明書記載の受験回が2019年度第3回以降のものを有効とする）し、かつ出願締切日までに提出できるもの1種類かつ1回のものに限ります。提出後の証明書類の差し替え、返却はできません。
なお、TOEFL iBT® および TOEIC® (L&R) & TOEIC® S&Wについては日本国内で受験した結果に限り提出を認めます。

①出願時に必要な等級またはスコア

試験の種類	必要なスコア
実用英語技能検定（英検）	準1級以上
TEAP ^(注1)	309点以上
TOEFL iBT®	72点以上
IELTS™ (アカデミック・モジュールに限る)	5.5点以上
TOEIC® (L&R) & TOEIC® S&W ^(注2)	L&Rで785点以上かつS&Wで310点以上
GTEC (CBTタイプに限る)	1190点以上
ケンブリッジ英語検定	B2 First (FCE) 以上

（注1）「TEAP」は4技能バージョンに限りません。また、TEAP CBT

